

アンケート調査結果【検討用抜粋版】

本資料は、「府中市環境基本計画アンケート調査結果報告書（平成 25 年 3 月）」について、次期環境基本計画を検討する際に、審議会委員の皆様にご参照頂きやすいように詳細をカットし再整理した「抜粋版」です。調査方法、クロス集計のグラフ、自由意見等については、こちらの資料ではカットされていますので、これらをご参照する場合には報告書本編をご覧くださいようお願いします。

アンケート調査結果【検討用抜粋版】

目次

第 1 章. 市民アンケート調査の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1. 考察（調査結果の総括）・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 府中市や身の回りの環境の現状や課題について・・・・・・・・	4
3. 環境に配慮した行動の実践状況について・・・・・・・・	10
4. 環境づくりへの参加について・・・・・・・・	12
第 2 章. 事業者アンケート調査の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・	16
1. 考察（調査結果の総括）・・・・・・・・・・・・・・・・	16
2. 事業所における環境問題への取り組み状況について・・・・・・・・	18
3. 事業所における環境保全に対する考え方について・・・・・・・・	22
4. 市民・事業者・行政の連携による環境づくりへの参加について・・・・・・	23
5. 府中市の環境の現状や課題について・・・・・・・・	26
第 3 章. 農業従事者アンケート調査の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・	29
1. 考察（調査結果の総括）・・・・・・・・・・・・・・・・	29
2. 農地の保有状況、耕作状況について・・・・・・・・	30
3. 農地と環境保全の関わりについて・・・・・・・・	31
4. 市民・事業者・行政の連携による環境づくりへの参加について・・・・・・	32
5. 府中市の環境の現状や課題について・・・・・・・・	34
第 4 章. 小学生アンケート調査の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・	37
1. 考察（調査結果の総括）・・・・・・・・・・・・・・・・	37
2. 小学生アンケート調査結果・・・・・・・・	37
第 5 章. 中学生アンケート調査の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・	40
1. 考察（調査結果の総括）・・・・・・・・・・・・・・・・	40
2. 中学生アンケート調査結果・・・・・・・・	40

第1章. 市民アンケート調査の結果

1. 考察（調査結果の総括）

市民は、府中市の身近な環境の印象について、府中市の環境を、「快適な環境である」、「どちらかといえば、快適な環境である」と、多くの市民が肯定的な印象を持っている。その理由については、緑が多い、自然を身近に感じるという回答や、公園が多いとの回答が多く、府中市に残された自然や緑が豊富であると感じている市民が多いものと考えられる。一方で、快適な環境ではないと考えている市民は少ないものの、騒音・振動等について気になる、交通問題に不安を感じているとの回答も寄せられており、近隣騒音などの問題や交通問題などの生活環境の改善が求められていると考えられる。

府中市に生息する生き物が減少しているかどうかという印象については、全体では、以前よりも生き物が減ったと思うという回答が多く、よくわからないという意見も多く寄せられた。なお、その内訳を見ると、50歳代以上から約半数以上が以前よりも生き物が減ったという意見が多くなっているが、20歳代～40歳代の比較的若い年齢層においても、それぞれの年代で約3割前後は生き物の減少を実感しているようであり、比較的近年においても都市化の進行、またはそれに伴う自然の減少が進んでいる様子が伺える。

府中市の特に改善や継続的な対策が必要であると思う課題については「安全な道路交通の推進」、今後も継続して重点的な取り組みを行うことが必要と思う施策については、「歩きやすく、自転車に乗りやすいまちづくりを進める」の各回答が多く、交通関連の課題について改善してほしいと望んでいる市民が多く見られた。

なお、同じく特に改善や継続的な対策が必要であると考えられている意見の中で、「自然エネルギーの利用促進」が1番目とあまり差がなく2番目に多く、さらに4番目に防災対策とまちづくりに対する意見が多くなっており、東日本大震災の発生を契機とした市民の関心が多くなってきている事が想定される。

また、府中市のランドマークともなっている「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観についての保全については、これらの歴史的な資源が市民生活の身近にある環境資源となっている事や、景観行政の推進などにより市の取り組みが推進されてきた効果が、実際の市民の目に見えている結果の表れとなっているものと考えられる。

環境に配慮した行動の実践状況として、省エネルギー機器の設置意思については、太陽光発電やクリーンエネルギー自動車（電気自動車・ハイブリットカー等）、高効率給湯器（エコキュート、エコジョーズ等）について将来導入の可能性が期待できる。なお、平成22年6月に実施された府中市地球温暖化対策地域推進計画策定のためのアンケート調査における同質問に対する結果では、これらの機器を利用したいという結果が20%前後だったのに対し、今回の調査結果では、各々の機器を利用したいという意向が、小型風力発電を除き、概ね40%～50%前後という増加傾向を示す結果となった。前回調査から約2年しか経っていない中で再調査結果において、これだけの増加傾向を示したのは、東日本大震災に端を発する福島第一原子力発電所の事故、その後のエネルギー需給の問題等を経験し、省エネルギー対策、再生可能エネルギーの利用等に対する市民の関心が高まってきている事が要因であると推測される。

日頃心掛けているエコライフ（環境に配慮した生活）の実践状況については、「資源になる

ようなものはできるだけ分別してリサイクル化に努めている」について、「実施している」との回答が約80%、「時々実施している」の回答が約17%と、何らかの取り組みを実施している市民がほとんどであり、市民のごみ問題への関心の高さと取り組みの意思が高いことがわかる。

その他、「こまめに消灯している」、「近くへは徒歩や自転車で移動している」、「買い物をする時はマイバッグを持参したり、「詰め替え商品」を購入するなど、ごみになるようなものはできるだけ買わないように努めている」、「テレビをつけっぱなしにしないとの回答が多く見られ、日常生活において意識をすれば、比較的簡単に取り組める実践メニューが高いことがわかる。また、これらの項目は、家計の節約に直接関係するため、「省エネ行動が節約につながる」といった意識により行動が実践されている可能性も推測される。

これらの傾向は、平成22年度に実施された環境省による国民調査「環境にやさしいライフスタイル実態調査」においても同様に、家庭内で日常的に出来る事についての実践割合が多い結果となっており、府中市を問わず、身近なところから始めるエコライフの実践については全国的に定着しつつある事が伺える。

一方で「自然観察会や野外環境学習会に参加するなど自然と触れ合うように努めている」「環境に関するイベントや地域活動に参加している」といった、地域社会の連携の中で実践する「参加」型のエコライフ行動の実践者は少なく、これについても前述の国民調査の結果と同様の傾向を示しており、地域社会の中で展開される参加型のエコライフ活動について、市民が参加する、あるいは参加したくなるような仕組みやきっかけづくりを考えていく必要がある。

前述の「参加」型のエコライフ行動の実践者は少ないという事にも関連するが、「環境づくりへの参加」の意向については、活動内容によっては参加したいとの回答が多い事から、市民が興味の持つ、参加しやすい仕組みや仕掛けを講じていく必要があると考えられる。なお、参加したくない理由としては、60歳以上になると体力的に無理という理由が多く、50歳以下は多忙であり、時間がとれない事を理由に挙げている回答者が多い。一方で20歳代～40代歳で興味がないからという理由も挙げられており、若年層の地域社会における環境活動への参加を促す方策を検討する必要があると考えられる。

市民が環境づくりに参加するために、取り組むべき重点事項については、「環境保全活動を実践しているグループや市民ボランティアなどの活動に協力する」が最も多く、意見交換会や環境学習会への参加など主体的に取り組む活動より、地域の組織が行う活動に協力するという比較的、サポートに近い形での参加のスタイルを望んでいる事がわかる。

自由意見の中から、こういった内容のものなら参加したいかという関連意見を抽出してみると、「定期的な市内の現場での学習会や工場見学、公園めぐり等」、「広く、市民や事業者にも生物多様性の意義を理解させ、府中市全体が一体となり、日常的に環境保全に努める。」といった事が意見として挙げられている。一方で、「どうして、参加するのかわからない。」「市民への環境活動の参加は、呼びかけるだけでなく実際に参加した人の声を聴きたい。」「市民は、何をどう協力していけばいいかわからない。」といったような意見が見られ、まだ関心までに至っていないが、現状で関心の薄い市民においても、参加するきっかけを作ることによって、環境活動の参加が可能であるという事が想定される。望ましいと考える役割分担については、市民、事業者、行政の三者が同列で責任と行動を担う三者が協力した役割を考えている市民

が多く、協働の意識は備わっているものと推測される。

府中市環境保全活動センターについては、大半の市民は認識しておらず、また、利用したい市民もほとんどいないことから、まず市民に周知するためのPRをより充実させ、利用の促進を図る必要がある。府中市環境基本計画、府中市環境基本条例についても、多くの市民は認知していない状況が見受けられる。府中市環境保全活動センターの周知も含め、市広報等での情報提供にとどまらず、インターネットの活用や、地域コミュニティにおける市民のお互いへの周知など、多面的な情報提供、共有化が求められる。

今回のアンケート結果によると、緑や自然、それを取り巻く歴史的景観などについての関心の高さが見られる一方、交通に関連する課題を挙げている市民が多いことから、自然と歴史を保全しつつ、自動車、自転車、歩行者などあらゆる視点からの交通のあり方を中心とした都市づくりを、どのように展開していくかが、府中市の地域的な課題として考えられる。

また、地域別の回答において、どの地域においても府中市を評価する点として、歴史や自然、景観と生活の調和に関する回答が多く挙げられているが、特に、府中市中心部以外の回答においてマンションの乱立による防犯上の問題や、農地や自然の減少に対する懸念、道路の安全性などに対する不満が見られ、地域により生活環境面における課題が見られる結果となった。

エコライフについては、身近に出来る取り組みに関しては、多くの市民が取り組んでいる傾向が見られたが、取り組むにあたって経済的、人的な負担が大きいものや、自らが主体的に地域や周辺を巻き込みながら取り組んでいく行動に関しては、あまり取り組みが進んでいないことがわかり、現在以上のエコライフの実践者拡大に向けた取り組みの展開が求められる。

あらゆる環境情報については、本基本計画、根拠となる基本条例、現行計画に基づく象徴的な施策の実施として立ち上がった府中市環境保全活動センターなど、すべてのものについて市民の認識は、残念ながら低い状況となっており、次期基本計画策定から、今後の取り組みの展開にあたって、常に市民への周知をどのように行っていくかを検討していく必要がある。

2. 府中市や身の回りの環境の現状や課題について

(1) 身近な環境の印象（単回答）

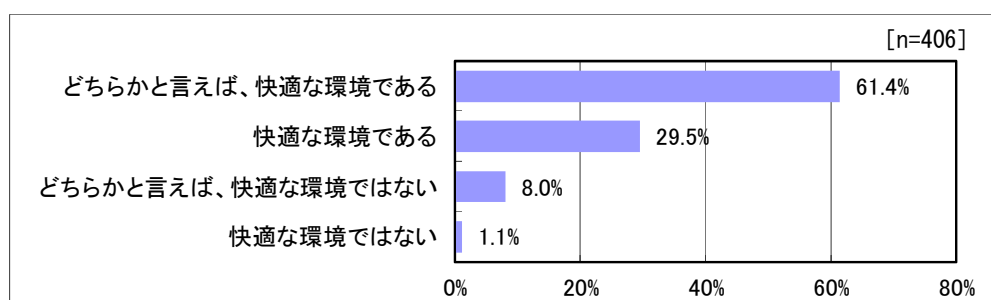
現在の身近な環境に対する認識については、「快適な環境である」が29.5%、「どちらかといえば、快適な環境である」が61.4%あり、肯定的な意見が多くなっている。

ただし、「どちらかといえば、快適な環境ではない」も8.0%ある。

属性別にみると、各属性において大きな違いはないものの、性別では、やや男性の方が肯定的な意見が多くなっている。

年齢別では、50歳代、70歳代以上でやや肯定的な意見が多くなっている。

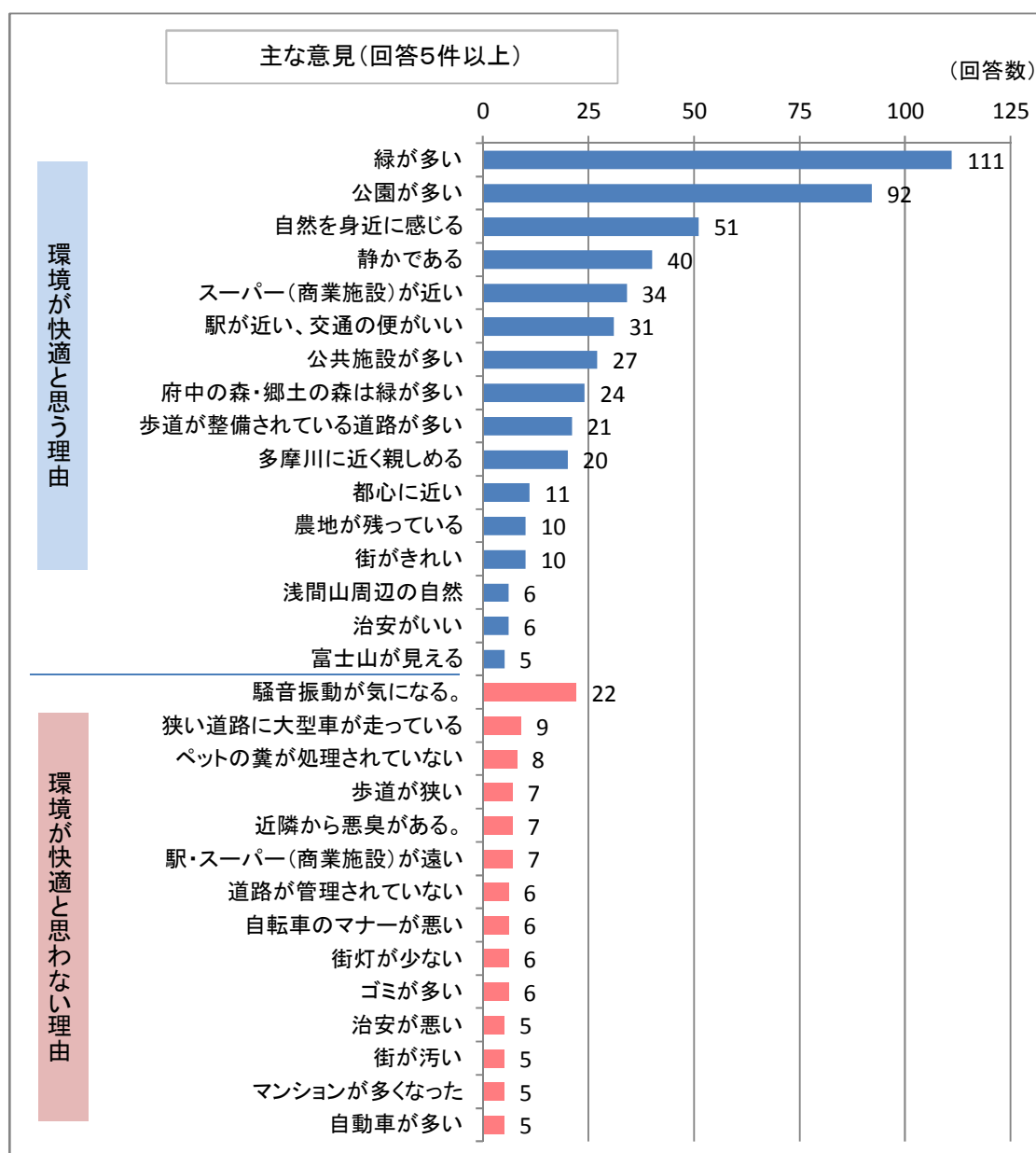
地区別では、第3地域、第4地域で肯定的な意見が最も多く、第5地域で否定的な意見が最も多くなっている。



(2) 環境の印象についての回答理由（自由回答）

環境が快適と思う理由についての記述回答では、緑が多い（111件）、公園が多い（92件）、自然を身近に感じる（51件）と、公園や自然の緑が豊かだとする意見が最も多く、次いで、静かである（40件）スーパー（商業施設）が近い、交通の便に恵まれているなどが多くあげられている。住宅地としての良好な環境と利便性の高さを評価する意見が多くあげられている。

一方、環境が快適でないと思う理由としては、騒音・振動問題（22件）、狭い道路に大型車が進入してくる（9件）ペットの糞の放置（8件）など交通問題や生活のマナー不足に起因する問題が多くあげられている。

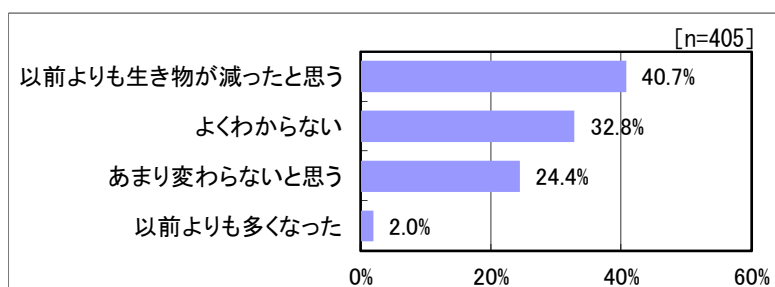


(3) 生息する生き物が増減している印象（単回答）

生息する生き物が減少している印象については、「以前よりも生物が減った」が40.7%あり、生きものが少なくなっていると感じている意見が多かった。しかし、「よくわからない」が32.8%ある。

年齢別でみると、高齢になるほど「以前よりも生物が減った」との回答が多くなっている。

地域別でみると、第8地域で「以前よりも生物が減った」が最も多く、第3地域で「以前よりも生物が減った」が最も少なくなっている。



(4) 昔より減少したと感じる生き物（記述）

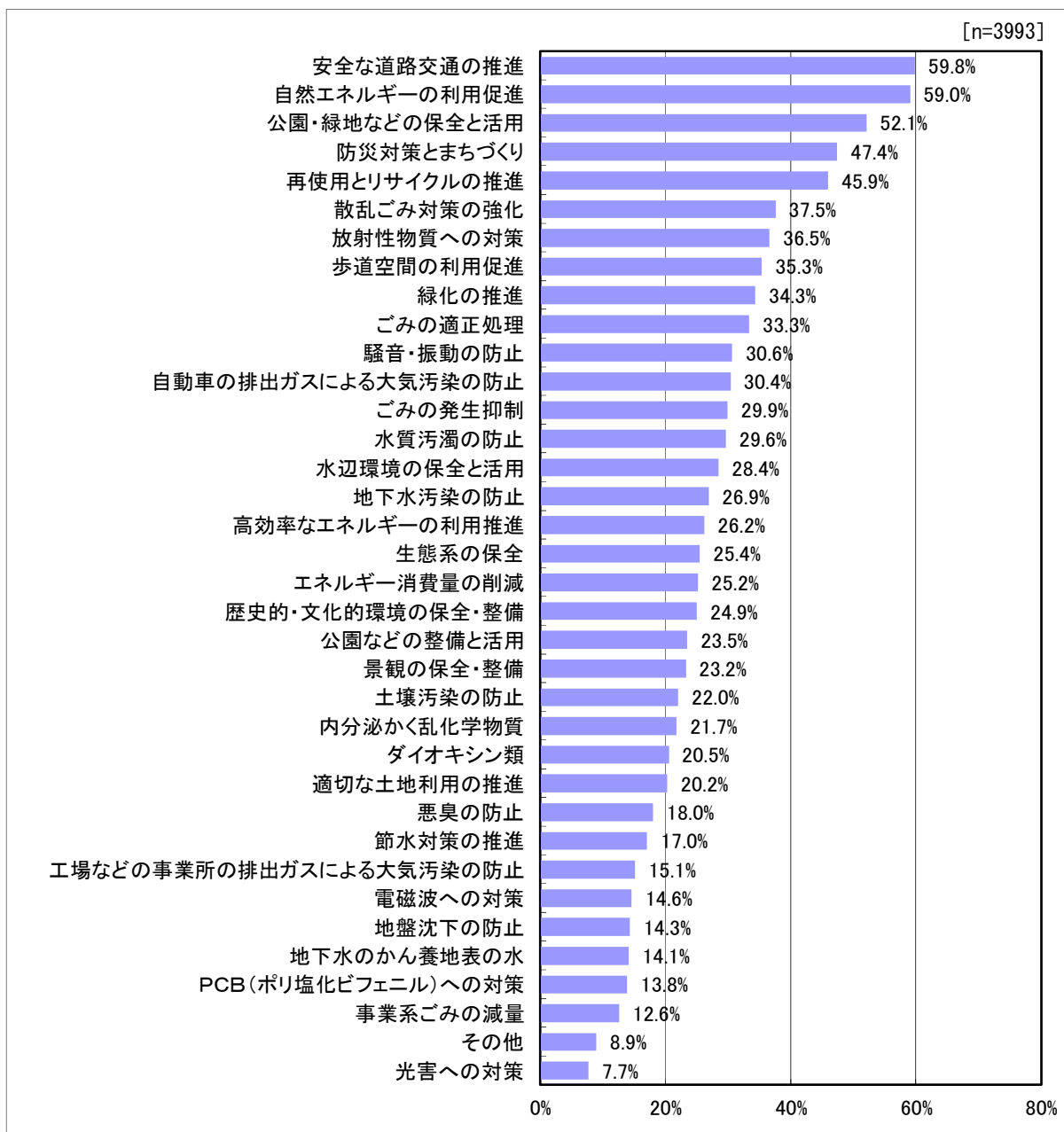
府中市において以前より少なくなった、見られなくなったと感じる生き物としては、トンボやセミ、チョウ、カブトムシなどの昆虫類が多くあげられた。また、スズメ、ツバメなどの鳥類が多くあげられているほか、カエルやザリガニなど水辺に棲む生物をあげる声も多い。

総じて、田んぼや畑などのある人里にみられる生物が多くあげられている。

分類	種名等	回答数	分類	種名等	回答数
昆虫	トンボ	47	鳥類	小鳥	2
	セミ	32		ジジュウカラ	2
	チョウ	30		カッコウ	2
	カブトムシ	29		ワカケホンセイインコ	2
	クワガタ	20		その他鳥類	15
	バッタ	16		猛禽類	4
	カマキリ	16		フクロウ	2
	コオロギ	8		猛禽類	2
	タマムシ	7		両生類	44
	ホタル	5		カエル	40
	テントウムシ	5		オタマジャクシ	4
	昆虫	4		その他水生生物	18
	アブラゼミ	3		ザリガニ	12
	イナゴ	3		タニシ	3
	カナブン	3		その他水生生物	3
	スズムシ	3		魚類	20
	ミノムシ	3		魚	7
	ハエ	3		メダカ	4
	モンシロチョウ	3		ドジョウ	3
	ケムシ	3		フナ	2
アゲハチョウ	2	その他魚類	4		
ミツパチ	2	爬虫類	32		
蚊	2	ヘビ	19		
その他昆虫	11	トカゲ	8		
鳥類	117	ヤモリ	3		
スズメ	41	アオダイショウ	2		
ツバメ	14	哺乳類	18		
ウグイス	12	コウモリ	4		
カラス	7	モグラ	3		
オナガ鳥	5	ネズミ	3		
鳥	5	ハクビシン	3		
ハト	4	その他哺乳類	5		
ヒグラシ	3	その他	10		
メジロ	3	カタツムリ	8		
		ミミズ	2		
		合計	523		

(5) 特に改善や継続的な対策が必要であると思う課題（複数回答）

特に改善や継続的な対策が必要であると思う課題については、「安全な道路交通の促進」が59.8%あり、次いで、「自然エネルギーの利用促進」が59.0%、「公園緑地などの保全と活用」が52.1%となっている。



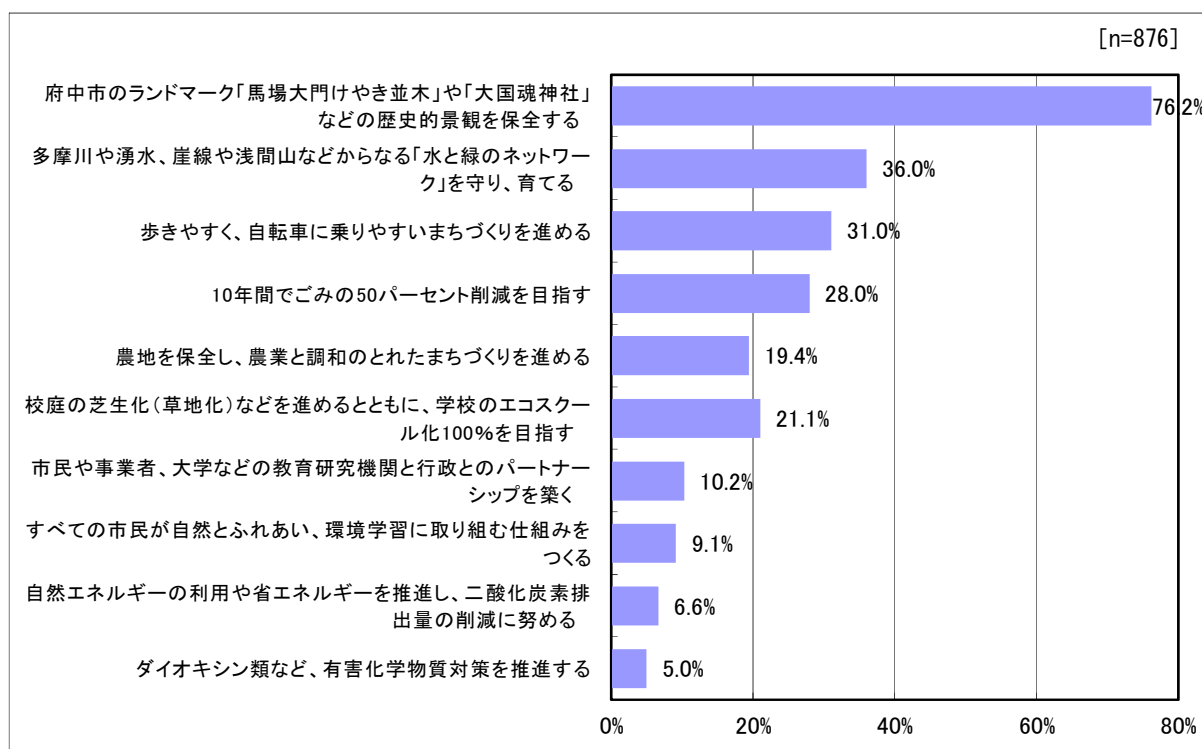
(6) 「効果があった」と思う施策（複数回答）

効果があったと思う重点施策については、「府中市のランドマーク「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全する」が76.2%、「多摩川や湧水、崖線や浅間山などからなる「水と緑のネットワーク」を守り、育てる」が36.0%、「歩きやすく、自転車に乗りやすいまちづくりを進める」が31.0%の比率が高くなっている。

性別にみると、男女とも「府中市のランドマーク「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全する」の比率が高くなっているが、女性の方が男性よりも効果があった」と思う施策との回答が多くなっている。

年齢別でも、全体的に「府中市のランドマーク「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全する」の回答が多いが、比較的若い世代ほど「効果があった」と思う施策との回答が多くなっている。

地域別では、「府中市のランドマーク「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全する」は、第2地域、第5地域での比率が高くなっている。



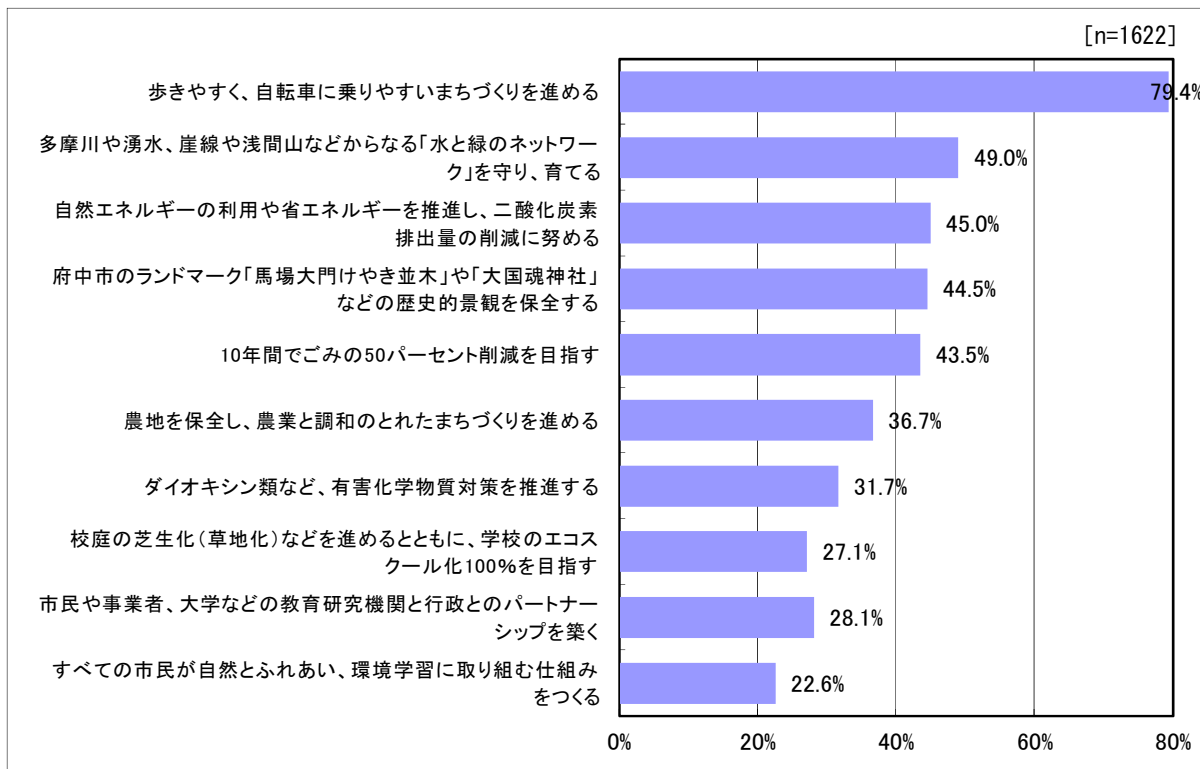
(7) 「今後も継続して重点的な取り組みを行うことが必要」と思う施策（複数回答）

「今後も継続して重点的な取り組みを行うことが必要」と思う施策については、「歩きやすく、自転車に乗りやすいまちづくりを進める」が79.4%となっており、約8割の回答が要望している施策であると推測できる。

属性別でみると、男女とも「歩きやすく、自転車に乗りやすいまちづくりを進める」回答が高くなっている。

年齢別では、高齢になるほど「多摩川や湧水、崖線や浅間山などからなる「水と緑のネットワーク」を守り、育てる」の比率が高く、比較的若い世代ほど「府中市のランドマーク「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全する」の比率が高くなっている。

地域別では、「府中市のランドマーク「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全する」は、第4地域、第7地域での比率が高くなっている。



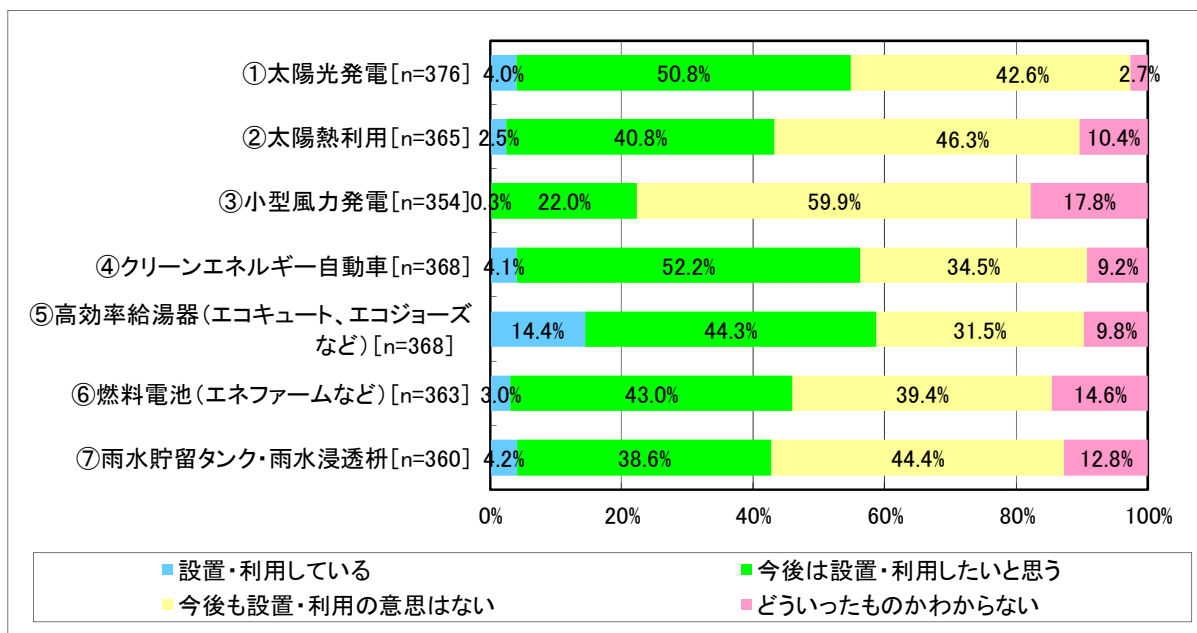
(8) 継続が必要と思う重点施策の理由（記述）

継続が必要と思う施策の理由は、437 回答（重複含む）寄せられ、「歩きやすく、自転車に乗りやすいまちづくりを進めます。」の回答が 165 件、次いで、「多摩川や湧水、崖線や浅間山などからなる「水と緑のネットワーク」を守り、育てます。」の回答が 50 件、「10年間でごみの50パーセント削減を目指します。」の回答が 50 件あった。

3. 環境に配慮した行動の実践状況について

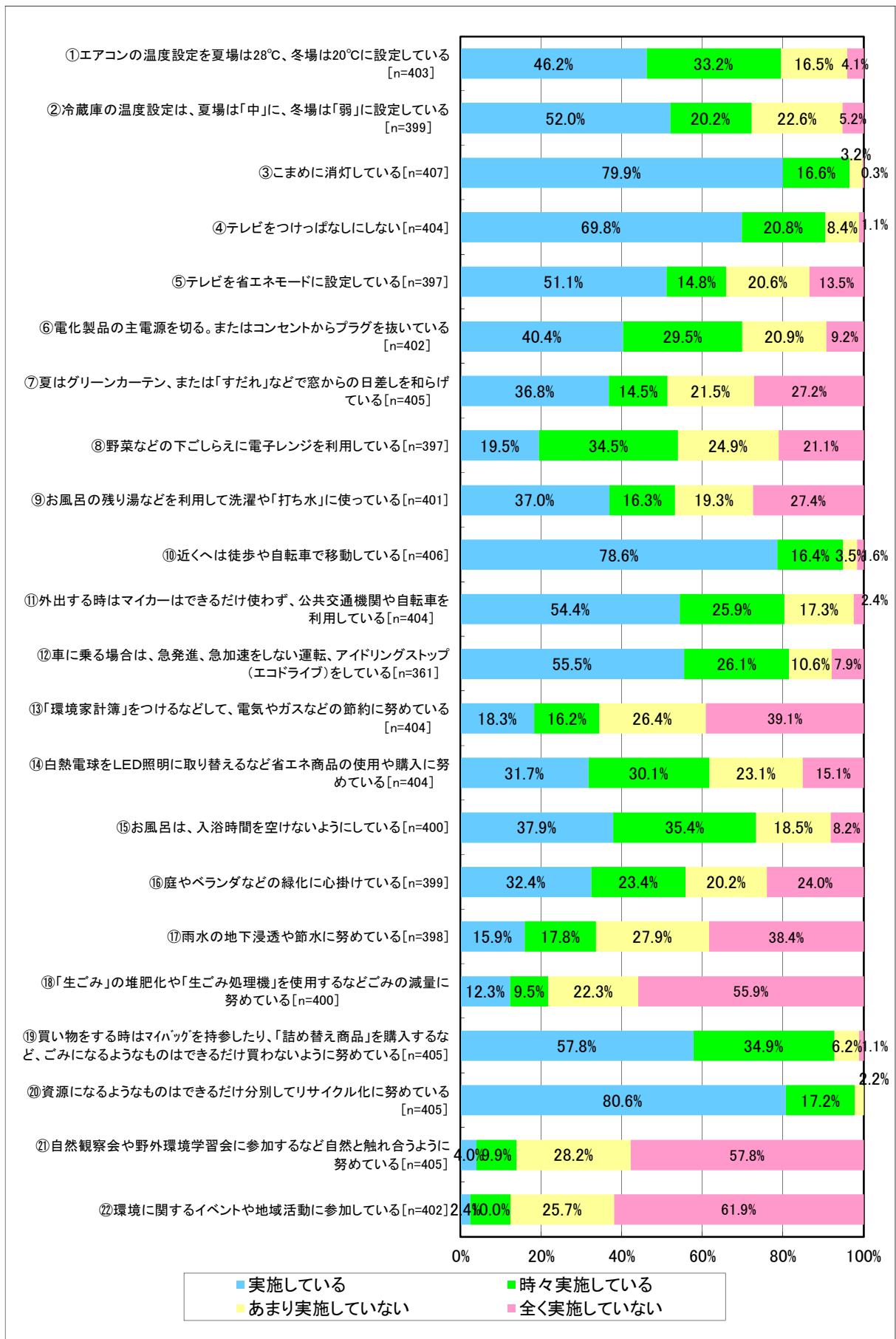
(1) 省エネルギー機器の設置・利用状況もしくは、設置意思（単回答）

省エネルギー機器の設置・利用状況もしくは、設置意思については、高効率給湯器について、設置利用している（14.4%）が最も多く、設置・利用しているもしくは、今後は設置・利用したいと思うとの回答で、過半数を上回った回答は、高効率給湯器（58.7%）との回答が最も多く、次いで、クリーンエネルギー自動車（56.3%）、太陽光発電（54.8%）との回答が続いている。



(2) 日頃心掛けているエコライフ（環境に配慮した生活）の行動（単回答）

日頃心掛けているエコライフ（環境に配慮した生活）の行動について、「実施している」回答の上位は、資源になるようなものはできるだけ分別してリサイクル化に努めている（80.6%）の回答が最も多く、次いで、こまめに消灯している（79.9%）、近くへは徒歩や自転車で移動している（78.6%）の回答が続いている。また、「実践している」と「時々実践している」の加算した回答の上位は、資源になるようなものはできるだけ分別してリサイクル化に努めている（97.8%）の回答が最も多く、次いで、こまめに消灯している（96.5%）、近くへは徒歩や自転車で移動している（95.0%）、買い物をする時はマイバッグを持参したり、「詰め替え商品」を購入するなど、ごみになるようなものはできるだけ買わないように努めている（92.7%）、テレビをつけっぱなしにしない（90.6%）の回答が続いている。



4. 環境づくりへの参加について

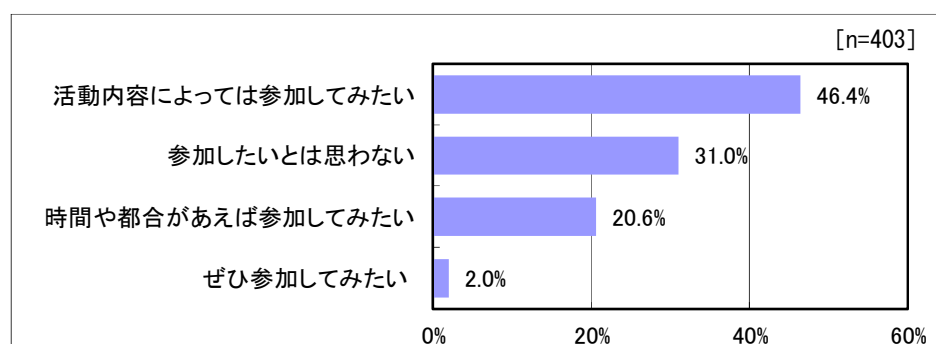
(1) 市民の自主的な環境づくり活動への参加意欲（単回答）

市民の自主的な環境づくりへの参加については、「ぜひ参加してみたい」は2.0%と非常に少なくなっている。ただし、「活動内容によっては参加してみたい」が46.4%、「時間や都合があれば参加してみたい」が20.6%と、何らかの参加意向を示す層は約7割あり、多くの市民が環境づくり活動への興味は持っているものと考えられる。

属性別でみると、性別では、女性において「活動内容によっては参加してみたい」の比率がやや高く、男性において「時間や都合があれば参加してみたい」の比率がやや高くなっている。

年齢別では、「ぜひ参加したい」は70歳代以上が高く、「時間や都合があれば参加してみたい」は60歳代が高くなっている。

地区別では、第5地域で「参加したいとは思わない」が高くなっている。

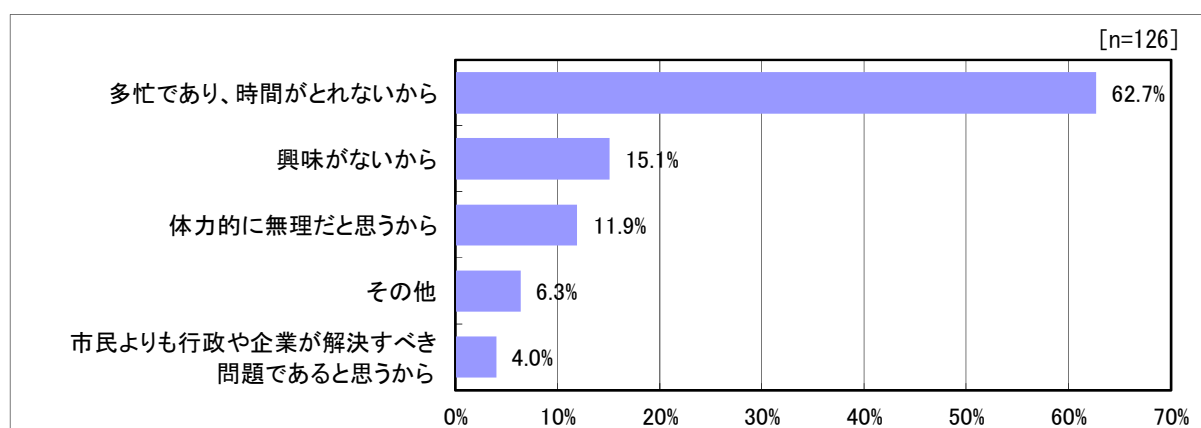


(2) 市民の自主的な環境づくりに参加したくない理由（単回答）

参加したいとは思わない理由としては、「多忙であり、時間がとれないから」が62.7%と最も多く、次いで「興味がないから」が15.1%となっている。

属性別にみると、男性において「多忙であり、時間がとれないから」の比率が高く、女性において「体力的に無理だと思うから」の比率が高くなっている。

年齢別では、「興味がないから」は30歳代の比率が高く、「多忙であり、時間がとれないから」は20歳代、50歳代の比率が高くなっている、70歳代以上では「体力的に無理だと思うから」の比率が高くなっている。

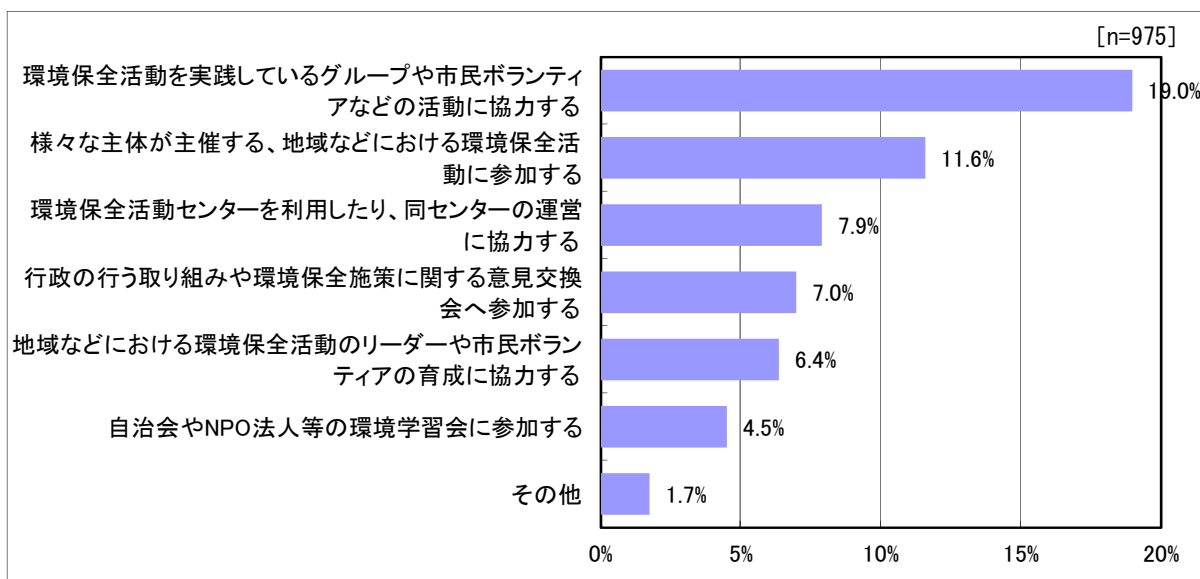


(3) 市民が環境づくりに参加するために、取り組むべき重点事項（複数回答・2つまで）

市民が環境づくりに参加するために、取り組むべき重点事項については、「環境保全活動を実践しているグループや市民ボランティアなどの活動に協力する」が19.0%と最も多く、次いで「様々な主体が主催する、地域などにおける環境保全活動に参加する」が11.6%となっている。

属性別でみると、性別では、男女とも概ね同様な傾向となっている。

年齢別では、「環境保全活動を実践しているグループや市民ボランティアなどの活動に協力する」は、50歳代の比率が高く、「様々な主体が主催する、地域などにおける環境保全活動に参加する」は、70歳代以上の比率が高くなっている。

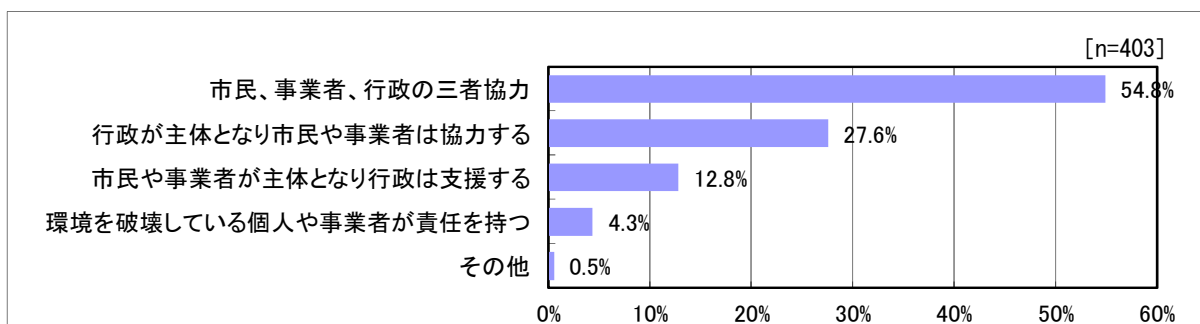


(4) 望ましいと考える役割分担（単回答）

望ましいと考える役割分担としては、「市民、事業者、行政の三者協力」が54.8%と特に多く、次いで「行政が主体となり市民や事業者は協力する」が27.6%となっている。市民、事業者、行政の責任・協力が広く認識され、その先導役として行政の役割を期待する声が多くなっている。

属性別でみると、性別では、男女とも同様な傾向であるが、「市民、事業者、行政の三者協力」は女性の意見がやや多く、「市民や事業者が主体となり行政は協力する」は男性の意見が多くなっている。

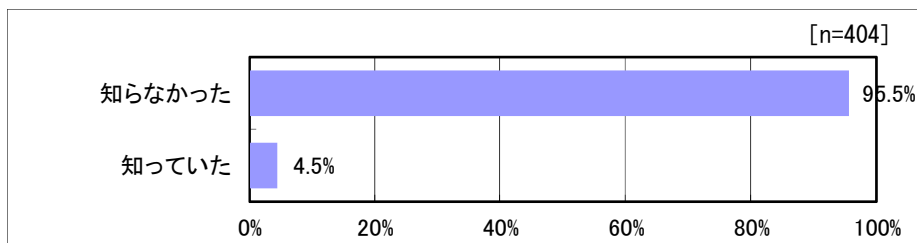
年齢別では、70歳代以上の意見は少ないが、年齢層が高くなるほど「市民、事業者、行政の三者協力」の比率が高くなっている。



(5) 「府中市環境保全活動センター」についての認知度（単回答）

「府中市環境保全活動センター」についての認知度については、「知らなかった」が95.5%と非常に比率が高くなっている。

属性別にみると、男女別では、男女ほとんど同様の結果であったが、年代別では、40歳代以上の年齢層のみ認知している状況であった。

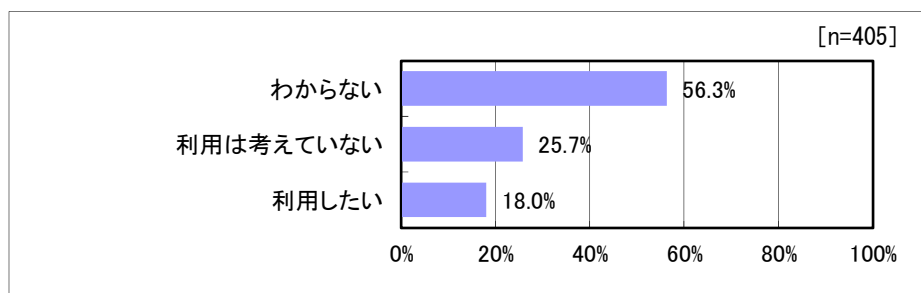


(6) 「府中市環境保全活動センター」を利用する意向（単回答）

「府中市環境保全活動センター」を利用したいかどうかの回答については、「わからない」56.3%、「利用は考えていない」25.7%と消極的な考え方の比率が高くなった。

属性別では、「利用したい」との意見は女性の比率が高く、「利用したくない」との意見は男性の比率が高くなっている。

年代別では、70歳代以上と60歳代で「利用したい」との比率が高く、30歳代で「利用したくない」との比率が高くなっている。

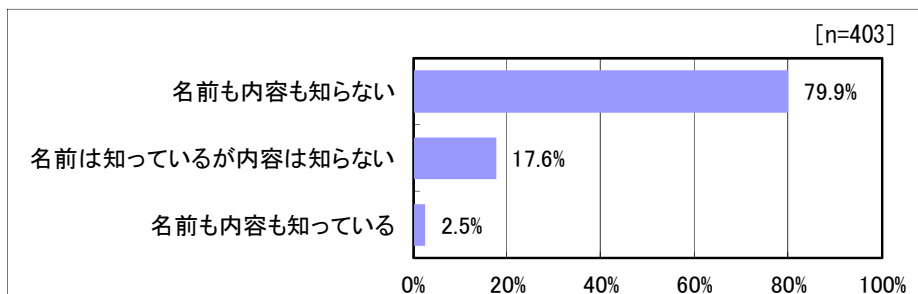


(7) 「府中市環境基本条例（平成11年制定）」の認知度（単回答）

府中市環境基本条例（平成11年制定）の認知状況については、「名前も内容も知っている」は2.5%であり、「名前も内容も知らない」が約79.9%と認知度は非常に低くなっている。

属性別にみると、性別では、「名前も内容も知らない」は女性の比率が高く、「名前は知っているが内容は知らない」は男性の比率が高くなっている。

年齢別では、高齢の世代ほど認知度が高くなる傾向にあるが、内容についての認知度はごくわずかとなっている。

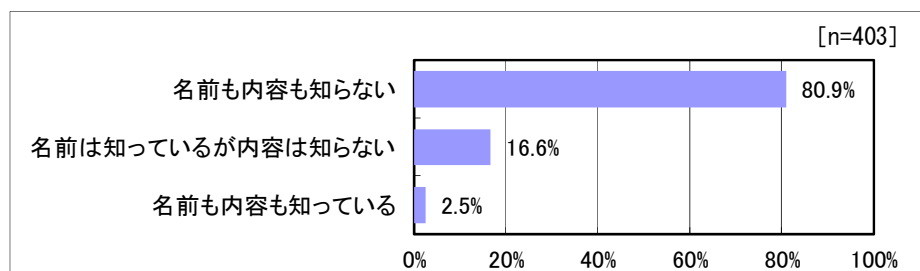


(8) 「府中市環境基本計画（平成 15 年策定）」の認知度（単回答）

府中市環境基本計画（平成 15 年策定）の認知状況については、「名前も内容も知っている」は 2.5%であり、「名前も内容も知らない」が約 80.9%と認知度は非常に低くなっている。

属性別にみると、性別では、「名前も内容も知らない」は女性の比率が高く、「名前は知っているが内容は知らない」は男性の比率が高くなっている。

年齢別では、高齢の世代ほど認知度が高くなる傾向にあるが、内容についての認知度はごくわずかとなっている。



(9) 自由回答（記述）

府中市の環境行政へのご要望や、あなたご自身のお考えをご自由にお聞かせください。との間に、214 の意見や要望等が寄せられた。（重複含む）

お寄せ頂いた意見や要望について、10 の項目で分類した。

No.	項目	回答数
1	開発（整備）と保全との自然との調和、まちづくり・景観	36
2	河川・水路・道路・駐輪場・公園の整備	27
3	教育問題・環境教育、市民の自覚、ボランティア	13
4	自然環境の保全・農地の保全、環境の破壊	15
5	ゴミ問題、タバコのポイ捨て等のマナー、美化、犬の糞、カラス・毛虫等対策	39
6	環境への協働、環境美化	5
7	行政の対応について、行政への要望について	43
8	地球環境問題、循環型社会、再生可能エネルギー、リサイクル、循環型社会	9
9	交通問題（排気ガス・騒音、車問題、ちゅうバス）	12
10	その他（防犯・防災、福祉、放射能等）	15

第2章. 事業者アンケート調査の結果

1. 考察（調査結果の総括）

今回のアンケートの回答者については、一部大企業が含まれるものの、概ね中小企業が中心となった。

事業所における環境への考え方について、大半の事業所において、重視しているもしくは、どちらかと言えば重視している状況にある事が確認された。しかしながら、環境に配慮した取り組みを実施する上での問題点については、手間や時間がかかる、費用がかかるといった、資金の確保や、直接的な利益と相反する点を課題としてあげる事業所が多く、例えば環境ビジネスの展開など、収益のバランスがとれる事につながる環境保全行動の促進や、環境優先の意識の向上が図れるような環境づくりなど、事業者が積極的に、無理なく環境保全に取り組める仕組み作りが求められている。

廃棄物の処理状況について、7割の事業者で「分別を徹底したり、極力リサイクルに回すなど、廃棄物の量を減らす努力をしている」との回答があった。これは、身近なところからできる取り組みやすい項目という面と、廃棄物の処理に係る経費の削減という面から、積極的に取り組んでいる項目として上げられたのではないかと考えられる。ただし、実施するうえでの問題点としては、「手間や時間がかかる」「費用がかかる」との回答が多く、やはり、資金的な課題や、収益とのバランスを、取り組みが進まない理由として挙げていることがわかる。

事業所で実施している環境保全対策については、「不必要な照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などを行なっている」「事業所で使用する用紙などに再生紙を使用している」「簡易包装や梱包材の再利用による包装材廃棄物の減量化」との回答が上位であり、どちらかというオフィスにおける職員の身近な取り組みが可能な項目の実践が多く見られた。

環境マネジメントシステムの対応については、「関心が無い」との回答が約7割と多く、現時点では、環境マネジメントシステムの導入を視野にいたした企業活動の実践状況は、未だ比較的大きな企業に留まっていることがわかる。大企業については、すでに環境マネジメントシステムを取得されている事が考えられる中、今後は、中小企業に対しての普及を促進していくことが求められる。

環境保全に対する企業の役割の考え方については、「事業活動に伴う環境への影響（排ガスや排水、廃棄物）を可能な限り低減させる」との回答が多く、事業行為に伴う環境への負荷については、自己責任に基づき対応したいとの認識があると考えられる。

環境保全対策を推進していくに当たっての障害では、「対策を行なうための資金不足や環境問題の現状や、具体的対策に関する情報がない」との回答が多く、資金面における仕組みの構築や、より充実した環境情報の提供が求められる。

環境づくりへの参加については、「環境づくり活動と経営内容が合致すれば参加してみたい」「資金負担が生じるのでなければ参加してみたい」との回答が多く、参加するための理由付けや条件が合致できれば、参加者が多く望める可能性があると考えられる。

事業者の自主的な環境づくりに参加したくない理由としては、「協力できる人員や資金が確保できない」「経営内容と無関係である」との回答が多く、事業活動に何らか有益に結びつく環境を提供していきながら、参加事業者を増やしていく事が求められる。

役割分担の考え方については、「市民、事業者、行政の三者協力」を考えている事業者が多く、協働の意識は備わっているものと推測される。協働に事業者が参画しやすい仕組みや土台作りが必要である。

府中市の特に改善や継続的な対策が必要であると思う課題、もしくは、今後も継続して重点的な取り組みを行うことが必要と思う施策については、やはり、市民の意見と同じく、交通に関連する課題について改善してほしいと望んでいる事業者が多い。

また、効果があったと考えられる施策については、市民と同様に、府中市のランドマークである「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観についての保全が多い。

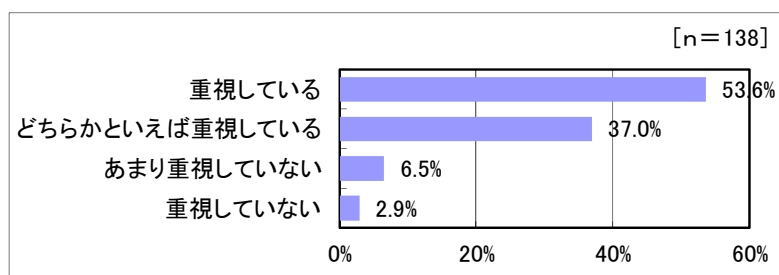
今回のアンケート結果は、中小企業からの回答が多かったが、身近に実践が出来る環境保全行動に取り組んではいるものの、設備投資がかかるもの、環境マネジメントシステムの導入のなど、費用や人手がかかる理由から実践状況や、実践の意向は少ない状況がわかった。

大企業については、市民、事業者、行政の三者の中でも、現在では地域の環境づくりの先導的な役割を担っている状況にもある。しかしながら、中小企業が環境保全行動を実践していく事を展開していくにあたっての課題は多く、事業者間や、市民、事業者、行政の三者間による様々な情報提供や情報交換を行いながら、どんな企業も無理なく実践できる行動を増やしていく事が求められる。

2. 事業所における環境問題への取り組み状況について

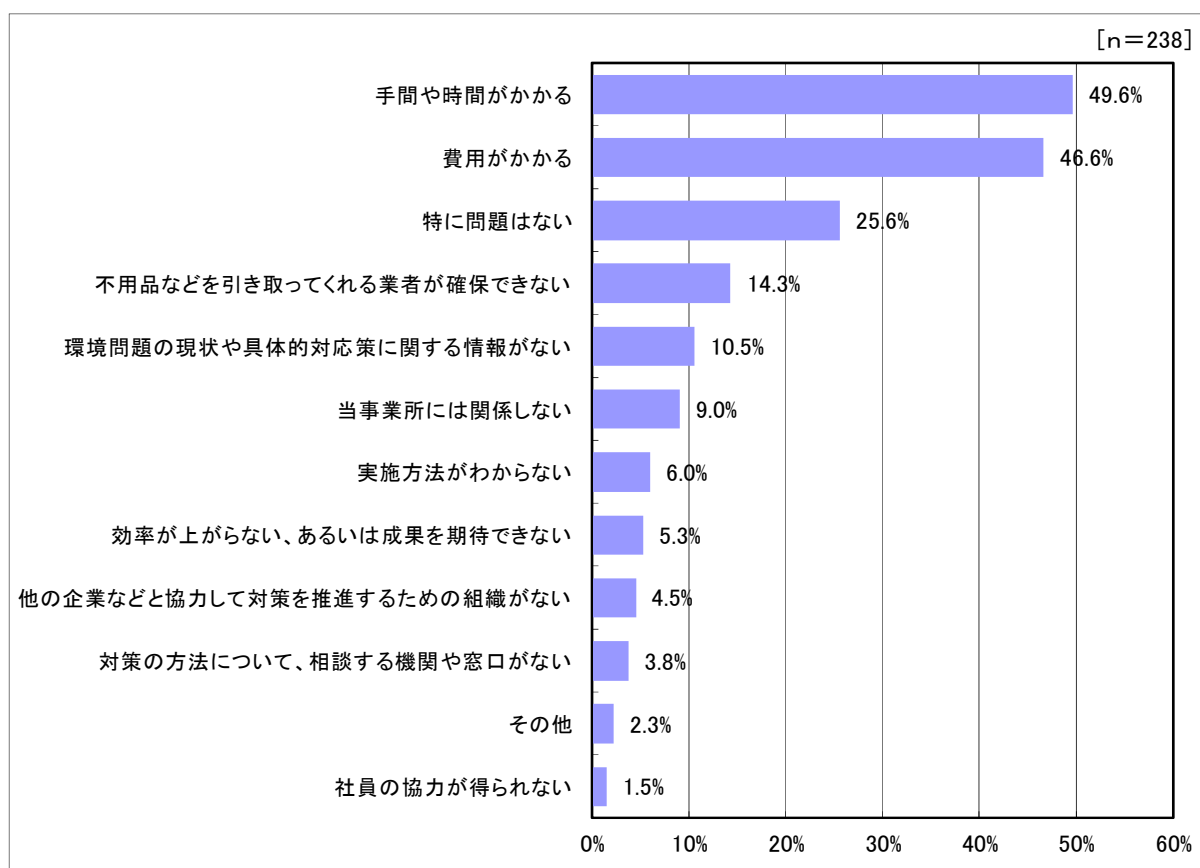
(1) 環境への考え方についての経営方針（単回答）

環境への考え方についての経営方針については、重視している 53.6%、どちらかと言えば重視している 37.0%と環境への配慮を経営方針としている事業者が大半を占めている。



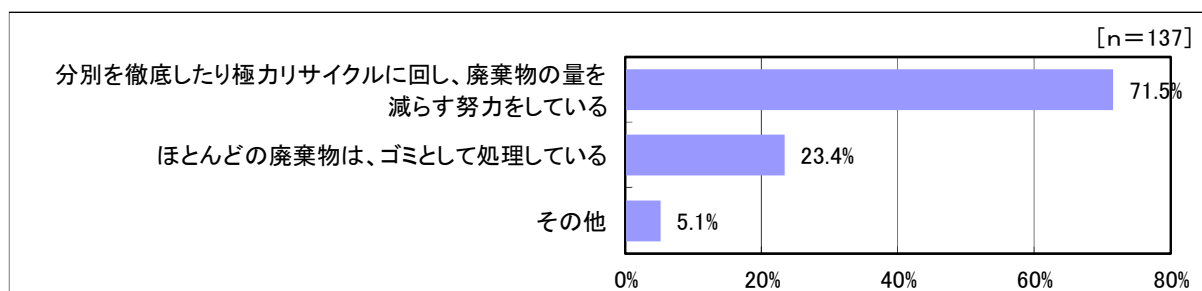
(2) 環境に配慮した取り組みを実施する上での問題点（複数回答）

環境に配慮した取り組みを実施する上での問題点については、手間や時間がかかる（49.6%）が最も回答が多く、次いで、費用がかかる（46.6%）と続いているが、特に問題はない（25.6%）との意見も寄せられている。



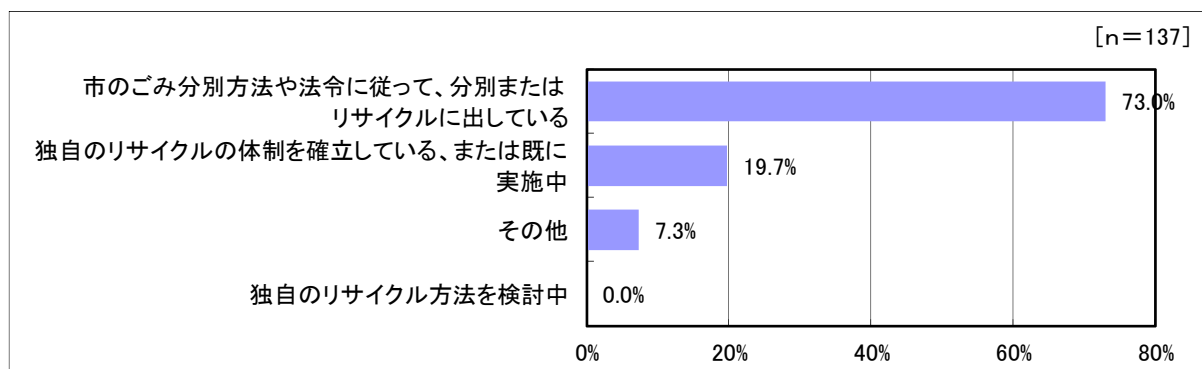
(3) 廃棄物の処理状況(単回答)

廃棄物の処理状況について、7割の事業者で「分別を徹底したり、極力リサイクルに回し、廃棄物の量を減らす努力をしている。」(71.5%)と回答している。



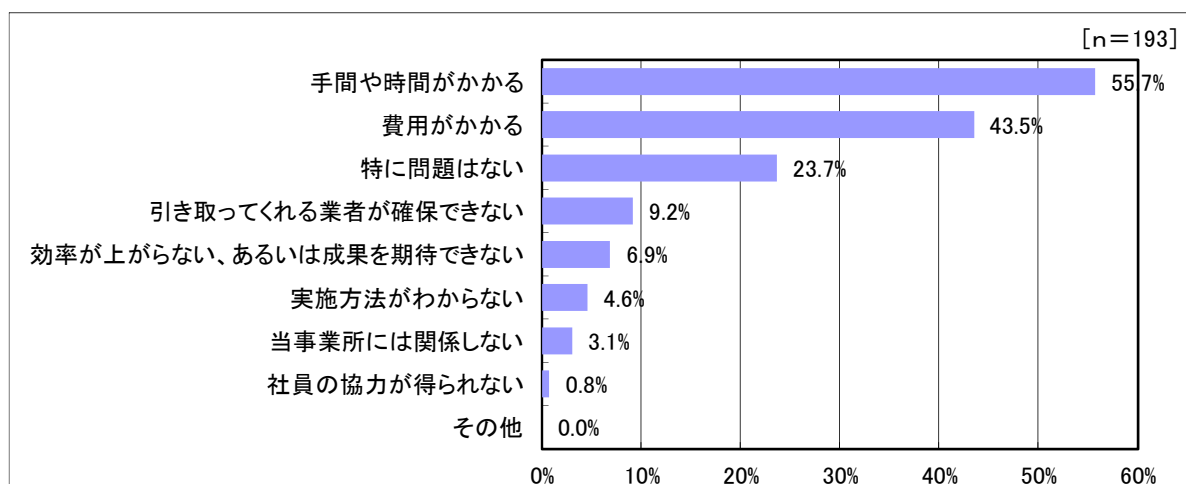
(4) リサイクルの実施状況(単回答)

リサイクル実施状況については、「市のごみ分別方法や法令にしたがって、分別またはリサイクルに出している」(73.0%)が約7割を占め、次いで、「独自のリサイクルの体制を確立している、または既に実施中」(19.7%)「その他」(7.3%)が続いている。



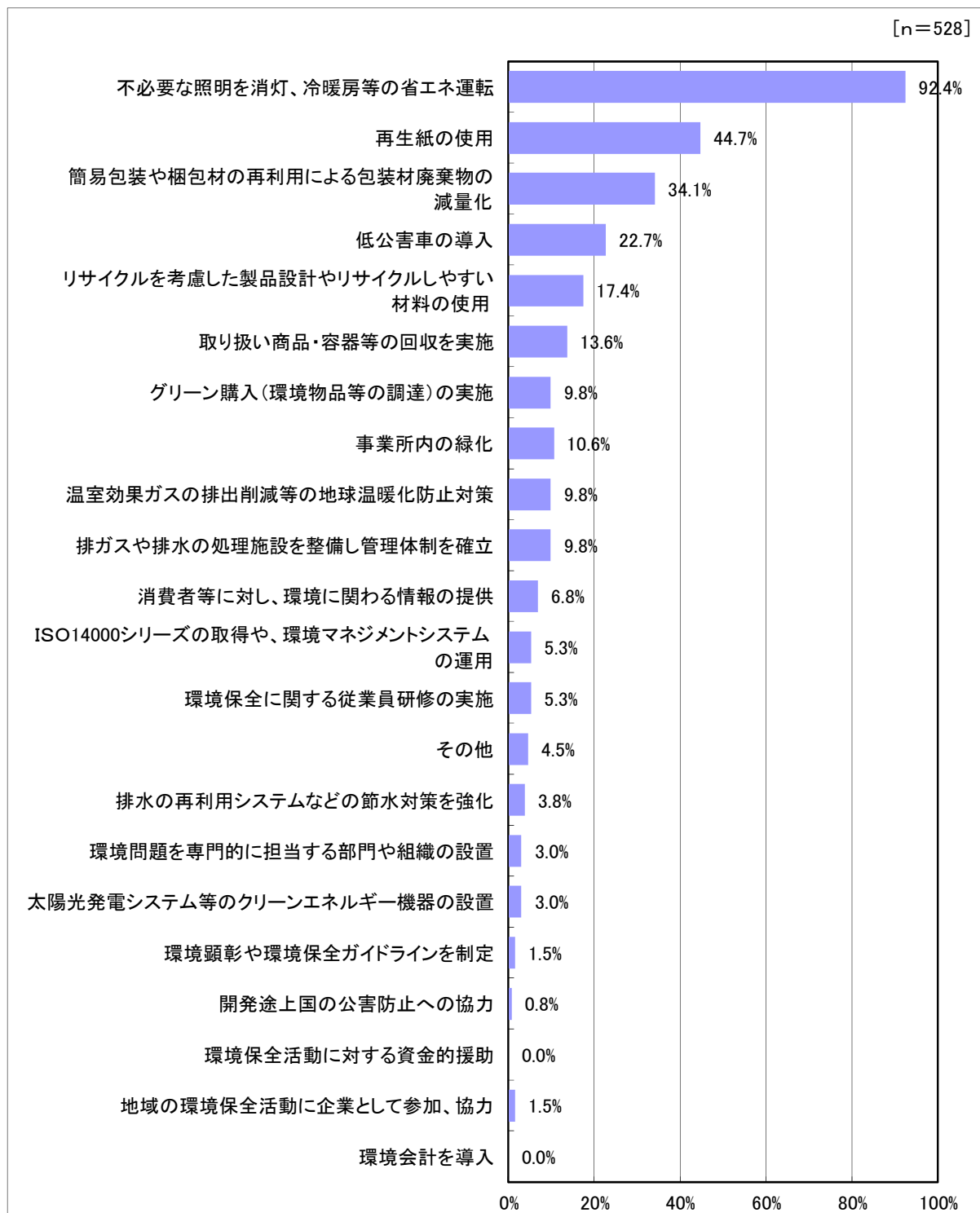
(5) リサイクルを実施するうえでの問題点(複数回答)

リサイクルを実施するうえでの問題点としては、「手間や時間がかかる」(55.7%)が過半数を占め、次いで、「費用がかかる」(43.5%)が続いている、しかし、「特に問題はない」(23.7%)との意見もあった。



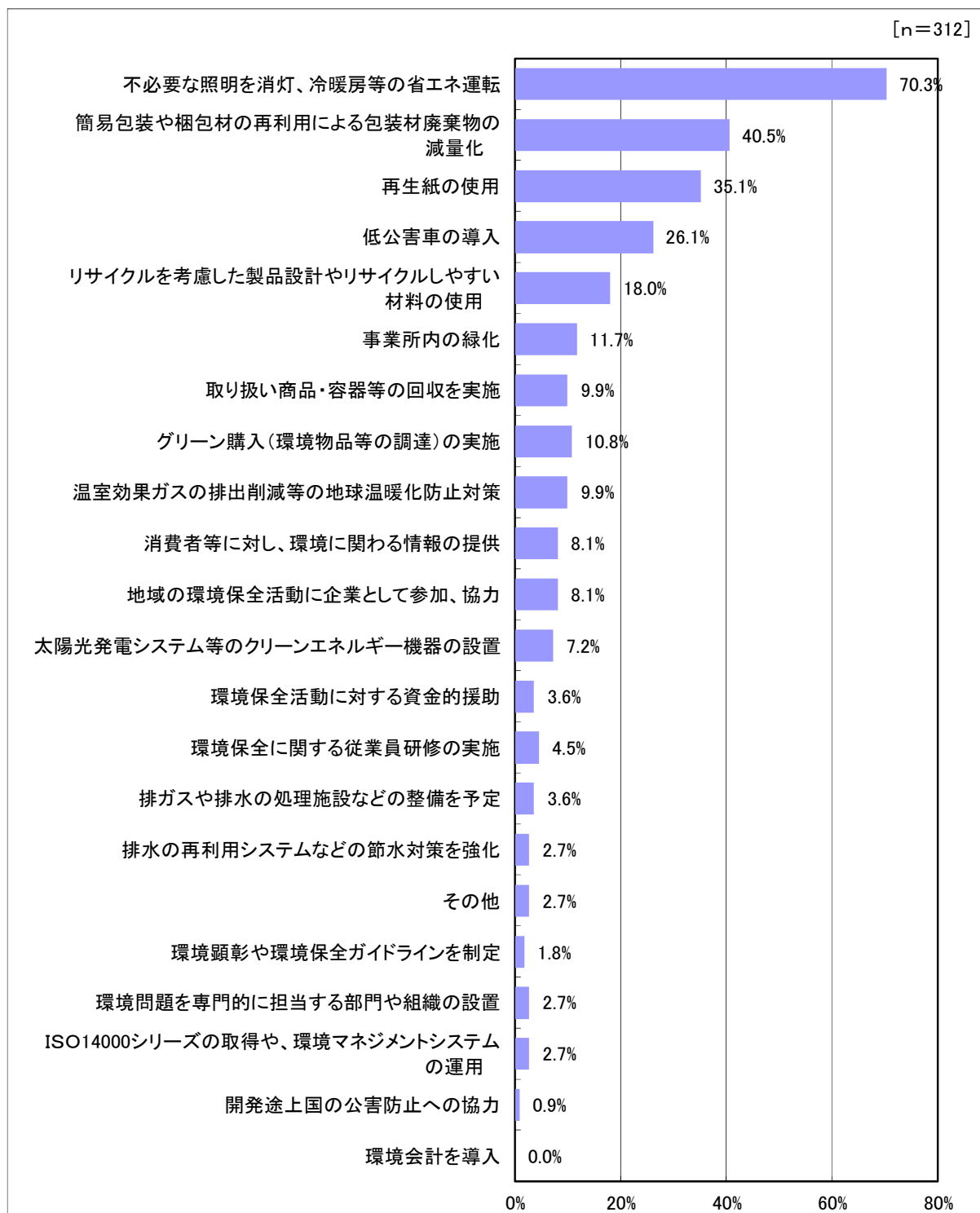
(6) 事業所で実施している環境保全対策（複数回答）

現在、事業所で実施している環境保全対策としては、「不必要な照明を消灯、冷暖房等の省エネ運転」（92.4%）「再生紙の使用」（44.7%）「簡易包装や梱包材の再利用による包装材廃棄物の減量化」（34.1%）が回答の上位となっており、取り組みやすい環境対策が上位を占めている。



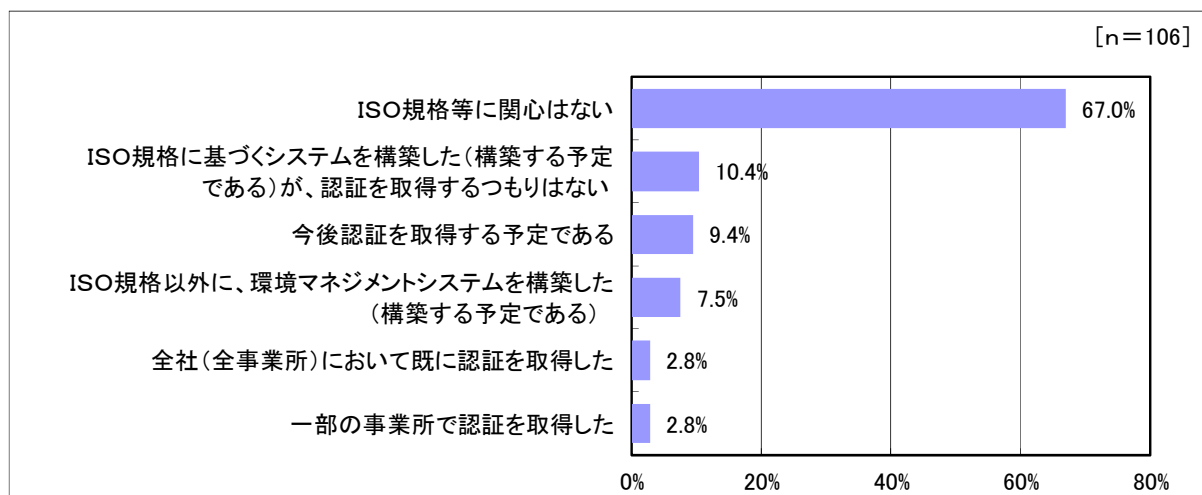
(7) 事業所で予定している環境保全対策（複数回答）

今後、事業所で予定している環境保全対策についても、同様に、「不必要な照明を消灯、冷暖房等の省エネ運転」（70.3%）「簡易包装や梱包材の再利用による包装材廃棄物の減量化」（40.5%）、「再生紙の使用」（35.1%）との回答が多く寄せられ、（6）事業所で実施している環境保全対策の回答とほぼ同じ内容の回答となった。オフィスにおける省エネ行動を中心に、身近に対応が可能なところからの取り組みを進めていくことが考えられる。



(8) 環境マネジメントシステムの（国際規格 ISO14001 規格の認証）対応状況（単回答）

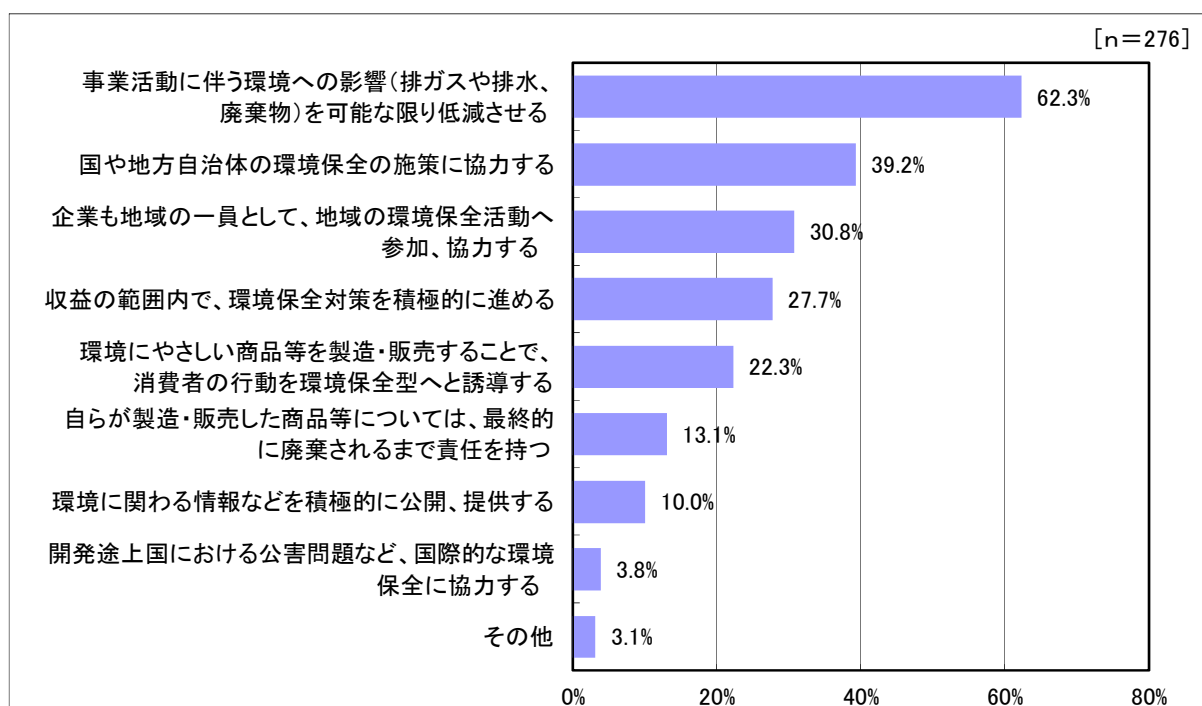
環境マネジメントシステムの対応状況については、「ISO 規格に関心がない」（67.0%）との意見が、大半を占めているが、「ISO 規格に基づくシステムを構築した（構築する予定である）が、認証を取得するつもりはない」（10.4%）「今後認証を取得する予定である」（9.4%）「ISO 規格以外に、環境マネジメントシステムを構築した（構築する予定である）」（7.5%）「全社（全事業所）において既に認証を取得した」（2.8%）「一部の事業所で認証を取得した」（2.8%）と、33%の事業所が環境マネジメントシステムに取り組んでいる（取り組む予定）事が確認できる。



3. 事業所における環境保全に対する考え方について

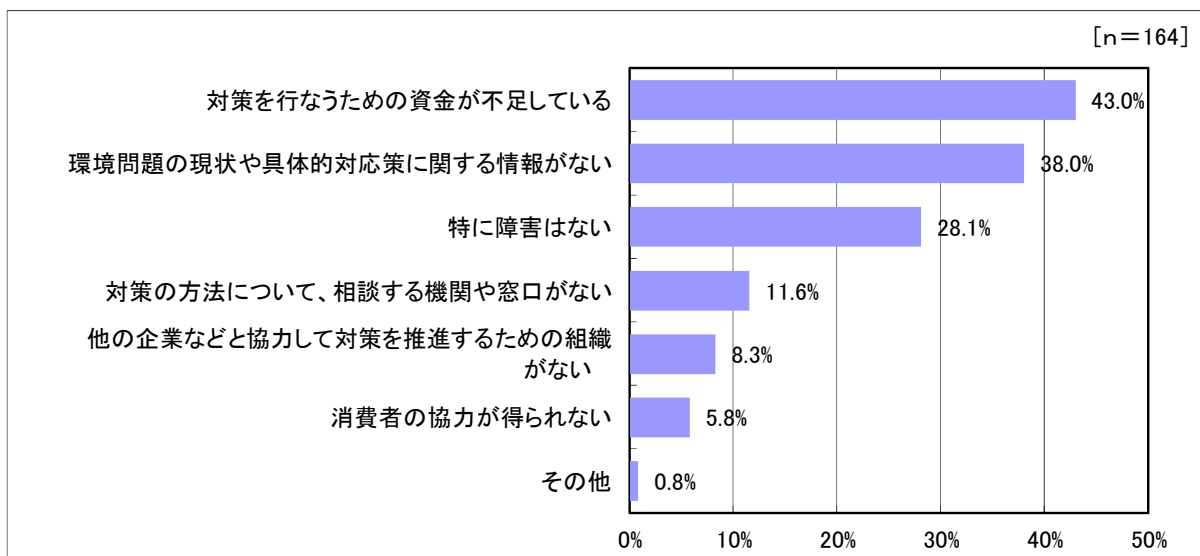
(1) 環境保全に対する企業の役割の考え方（複数回答）

環境保全に対する企業の役割の考え方については、「事業活動に伴う環境への影響（排ガスや排水、廃棄物）を可能な限り低減させる」（62.3%）と回答した事業者が最も多く、「国や地方自治体の環境保全の施策に協力する」（39.2%）「企業も地域の一員として、地域の環境保全活動へ参加、協力する」（30.8%）と続いている。



(2) 環境保全対策を推進していくに当たっての障害（複数回答・2つまで）

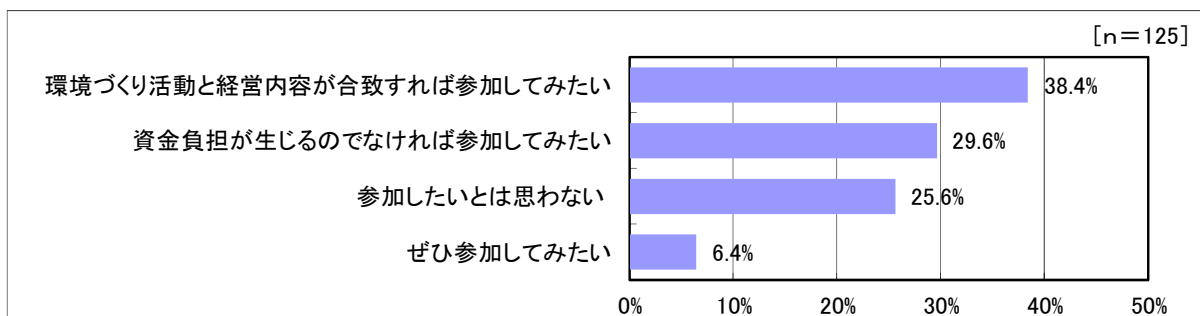
環境保全対策を推進していくに当たっての障害については、「対策を行なうための資金が不足している」（43.0%）との回答が最も多く、次いで、「環境問題の現状や具体的対応策に関する情報がない」（38.0%）「特に障害はない」（28.1%）との回答が多かった。



4. 市民・事業者・行政の連携による環境づくりへの参加について

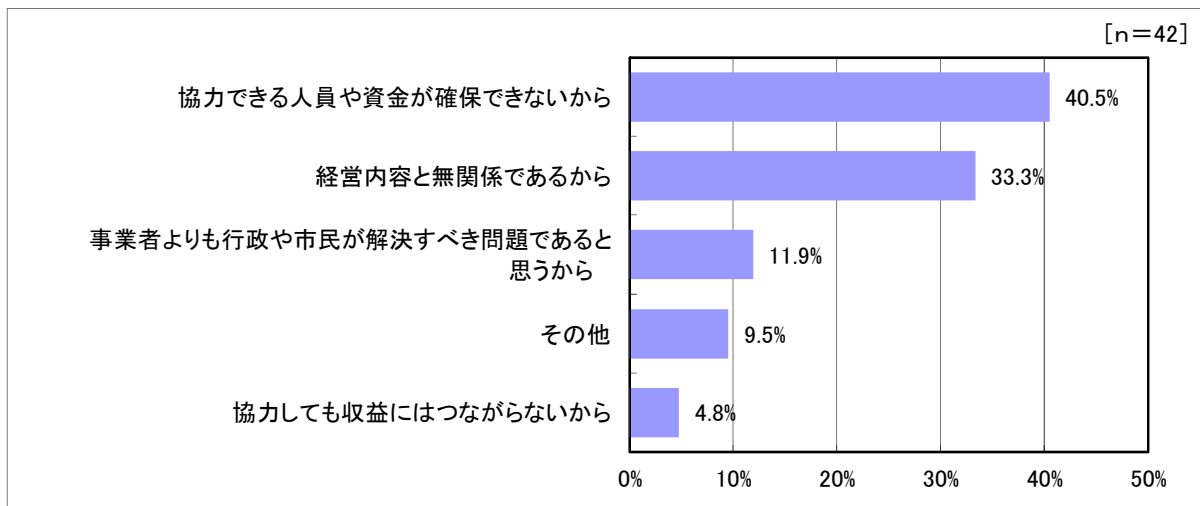
(1) 市民・事業者の連携による自主的な環境づくり活動への参加意欲（単回答）

市民・事業者の連携による自主的な環境づくり活動への参加意欲については、「環境づくり活動と経営内容が合致すれば参加してみたい」（38.4%）「資金負担が生じるのでなければ参加してみたい」（29.6%）「参加したいとは思わない」（25.6%）、との意見に分かれた。



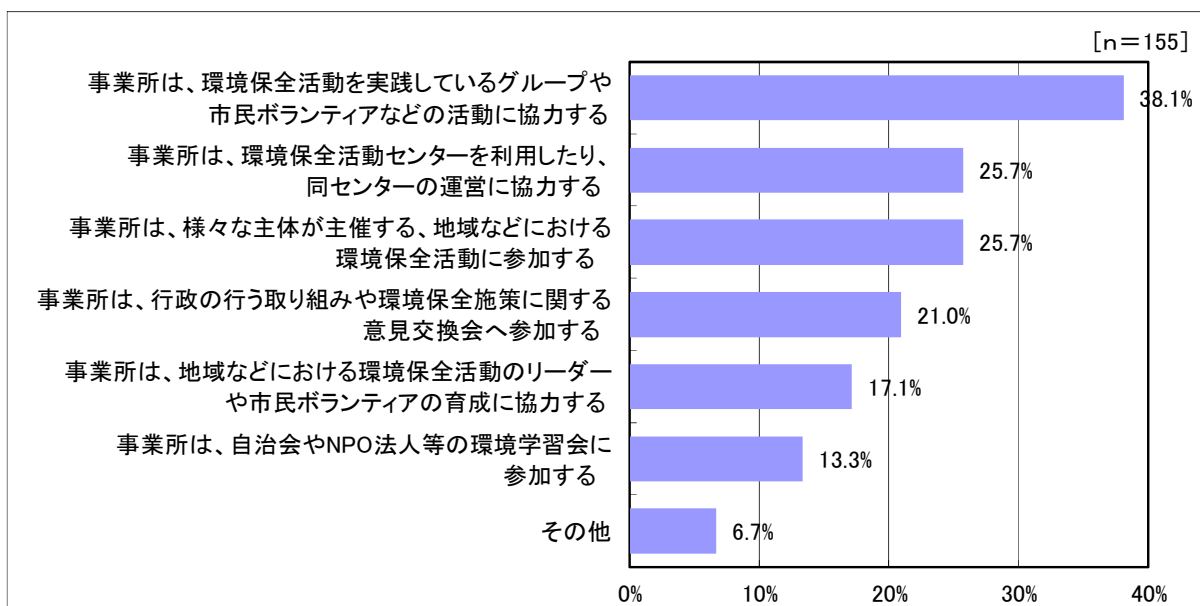
(2) 事業者の自主的な環境づくりに参加したくない理由（単回答）

環境づくり活動へ参加したくない理由として、「協力できる人員や資金が確保できないから」（40.5%）との回答が最も多く、次いで、「経営内容と無関係であるから」（33.3%）「事業者よりも行政や市民が解決すべき問題であると思うから」（11.9%）との回答が続いている。



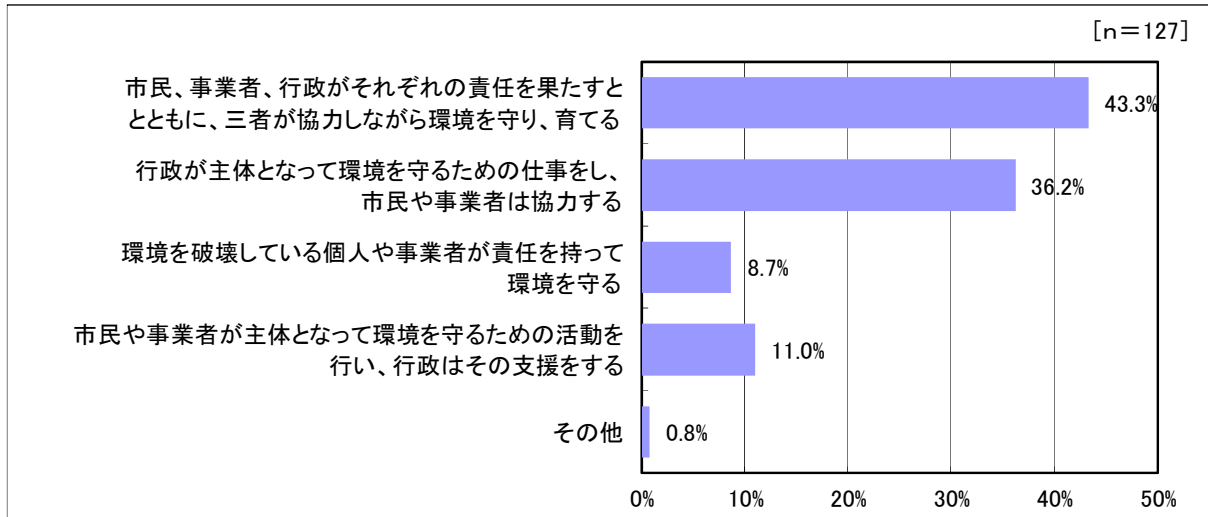
(3) 環境づくりに参加するための重点事項（複数回答・2つまで）

環境づくりに参加するための重点事項については、「事業所は、環境保全活動を実践しているグループや市民ボランティアなどの活動に協力する」（38.1%）の回答が最も多く、次いで、「事業所は、環境保全活動センターを利用したり、同センターの運営に協力する」（25.7%）「事業所は、様々な主体が主催する、地域などにおける環境保全活動に参加する」（25.7%）「事業所は、行政の行う取り組みや環境保全施策に関する意見交換会へ参加する」（21.0%）との回答が続いている。



(4) 役割分担の考え方 (単回答)

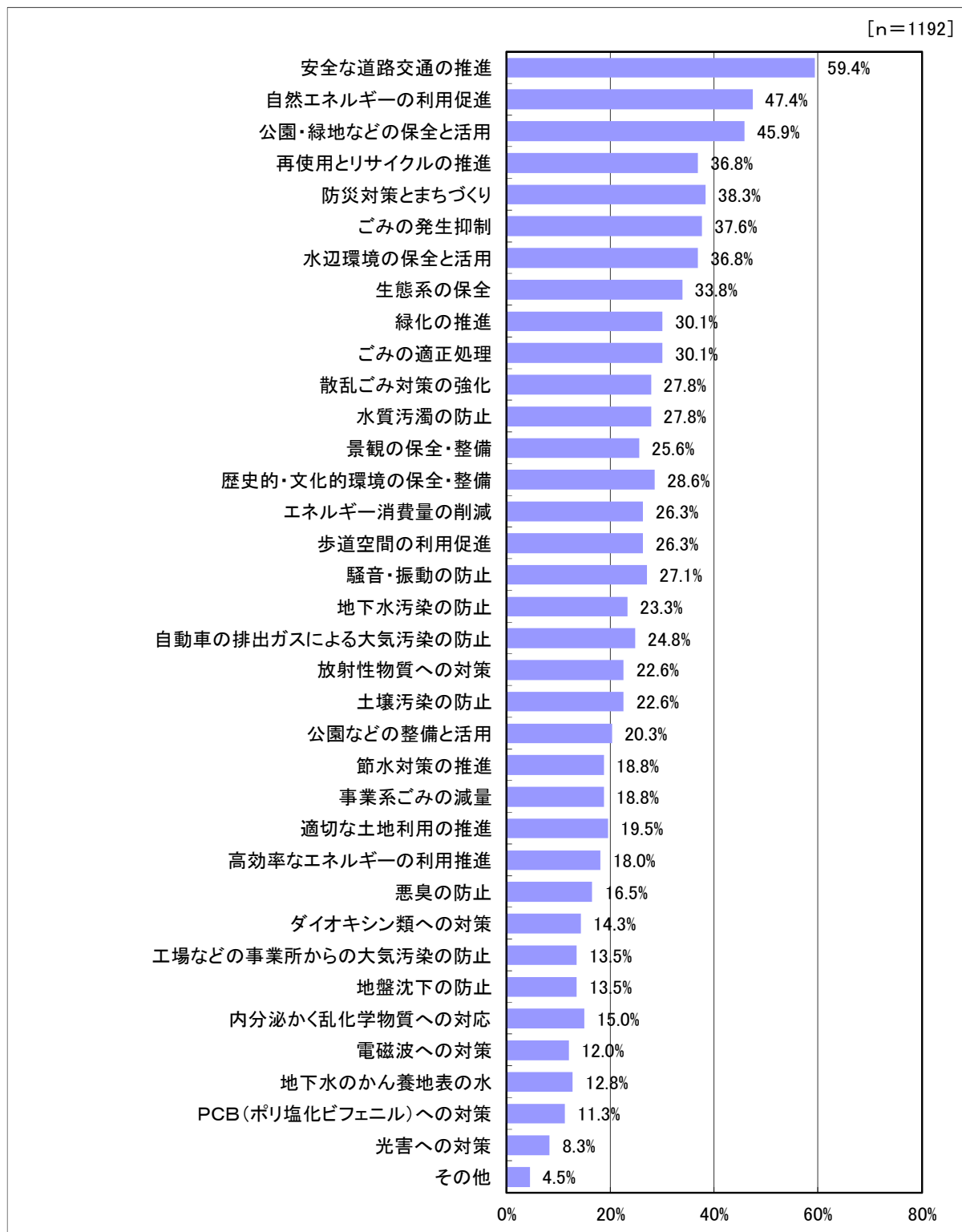
役割分担の考え方については、「市民、事業者、行政がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り育てる」(43.3%)との回答が最も多く、次いで、「行政が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」(36.2%)となり、事業者による考え方が二分する回答となっている。



5. 府中市の環境の現状や課題について

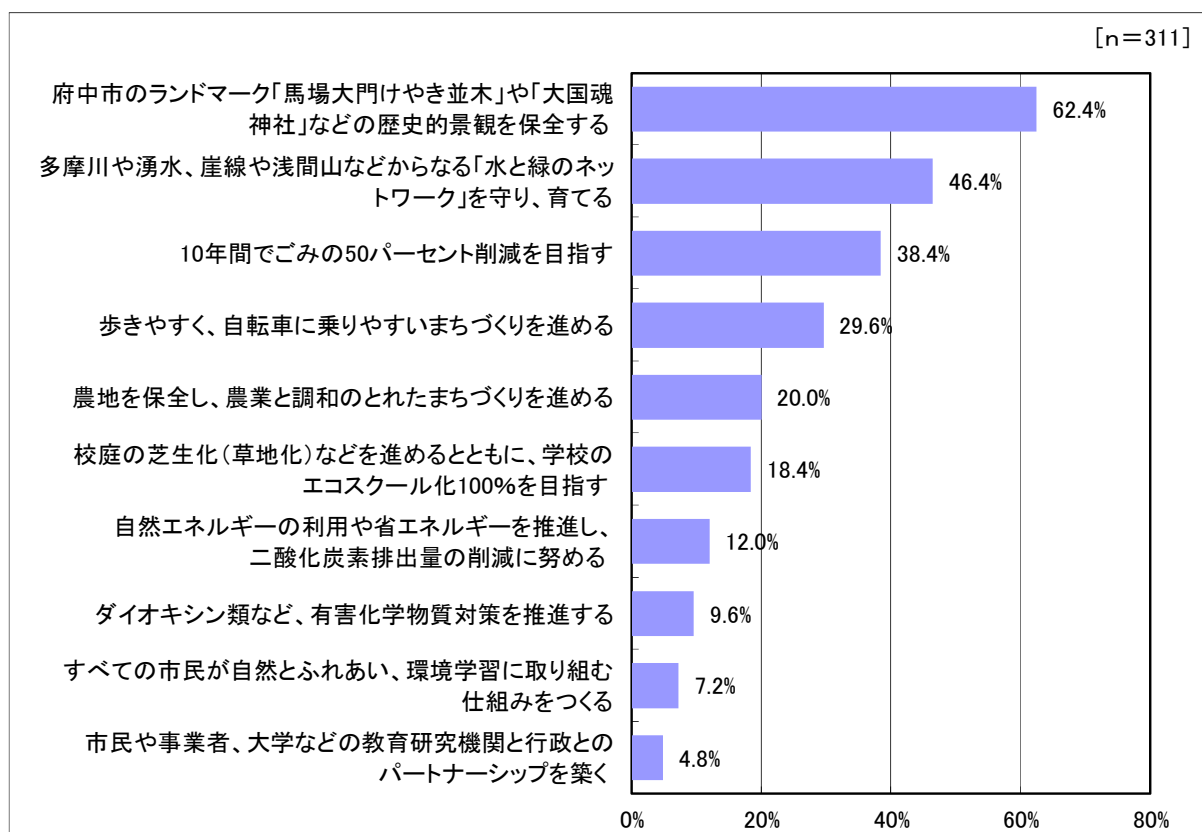
(1) 特に改善や継続的な対策が必要と考える環境課題（複数回答）

特に改善や継続的な対策が必要と考える環境課題については、「安全な道路交通の推進」（59.4%）との回答が最も多く、次いで、「自然エネルギーの利用促進」（47.4%）「公園緑地などの保全と活用」（45.9%）の回答が続いている。



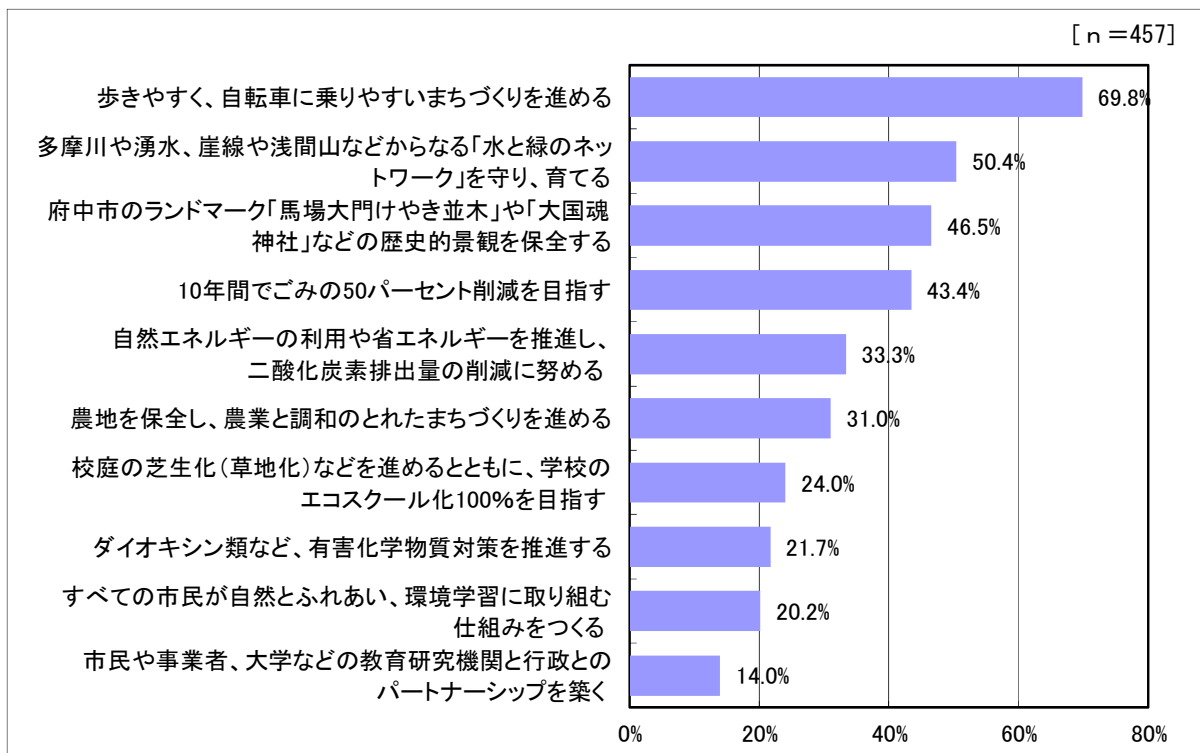
(2) 効果があったと考える環境施策の内容（複数回答）

効果があったと思う重点施策の内容については、「府中市のランドマーク「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全する」(62.4%)との回答が最も多く、次いで、「多摩川や湧水、崖線や浅間山などからなる「水と緑のネットワーク」を守り、育てる」(46.4%)、「10年間でごみ50パーセント削減を目指す」(38.4%)の回答が続いている。



(3) 今後も継続して重点的な取り組みを行うことが必要と考える環境施策（複数回答）

今後も継続して重点的な取り組みを行うことが必要と考える施策については、「歩きやすく、自転車に乗りやすいまちづくりを進める」(69.8%)との回答が最も多く、次いで、「多摩川や湧水、崖線や浅間山などからなる「水と緑のネットワーク」を守り、育てる」(50.4%)「府中市のランドマーク「馬場大門けやき並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全する」(46.5%)の回答が続いている。「歩きやすく、自転車に乗りやすいまちづくりを進める」については、市民アンケートについても、継続して取り組みを行ってほしい重点施策の最上位になっており、市民・事業者とも道路環境の整備が重要と考えられていると推測できる。



(4) 継続が必要と思う重点施策の理由 (記述)

継続が必要と思う施策の理由は、78 回答 (重複含む) 寄せられ、「歩きやすく、自転車に乗りやすいまちづくりを進めます。」の回答が 32 件、次いで、「農地を保全し、農業と調和のとれたまちづくりを進めます。」の回答が 10 件、「10 年間でごみの 50 パーセント削減を目指します。」の回答が 9 件あった。

(5) 自由意見 (記述)

府中市の環境行政へのご要望や、貴事業所のお考えをご自由にお聞かせください。との間に、27 の意見や要望等が寄せられた。(重複含む)

お寄せ頂いた意見や要望について、8 項目で分類した。

No.	項目	回答数
1	開発 (整備) と保全との自然との調和、まちづくり・景観	5
2	道路・公園の整備	2
3	ゴミ問題、タバコのポイ捨て、美化、ペットの糞	9
4	環境への協働、環境美化	2
5	行政の対応について、行政への要望について	3
6	地球環境問題、循環型社会、再生可能エネルギー、リサイクル、循環型社会	3
7	交通問題 (排気ガス・騒音、車問題、自転車)	2
8	その他 (防犯・防災、福祉、放射能等)	1

第3章. 農業従事者アンケート調査の結果

1. 考察（調査結果の総括）

農作物の用途として、自分の家での利用および直売所での販売や地元スーパーでの販売、給食へ提供など身近な地域への出荷がメインであり、市外への出荷は少ない。保有する農地については、生産緑地では、平均で 6.1 反歩、生産緑地以外の農地については、平均で 1.4 反歩の農地を保有していることが分かった。また、畑の保有地種別が多いが、水田やその他の回答もあった。

将来、農業を続けていきたい意向については、全ての回答者が今後も農業を継続していきたい意向であり、後継者も 72.7%は農業後継者がいるとの回答であった。

農地と環境保全の関わりについて、意欲的に取り組んでいる内容では、「地元での農作物の販売に協力している」「学校での子どもの農業体験に協力している」との回答が多く、農業が地域に密着していることがうかがえる。また、農地や農業が自然を豊かにしているのか、または、「地産地消」の取り組みが省エネに役立っているのかとの考えについては、全ての回答者が、「自然を豊かにしている」「省エネに役立っている」という考えを持っており、今後、農地を保全する施策として、地域との密着も重要であることから、さらなる農地保全の施策の推進が望まれる。

環境づくり活動へ参加については、「環境づくり活動と経営内容が合致すれば参加してみたい」と考えており、役割分担の考え方については、「市民、事業者、行政の三者協力」を考えている農業従事者が多く、協働の意識は備わっているものと推測される。協働に農業従事者が参画しやすい仕組みや土台作りが必要である。

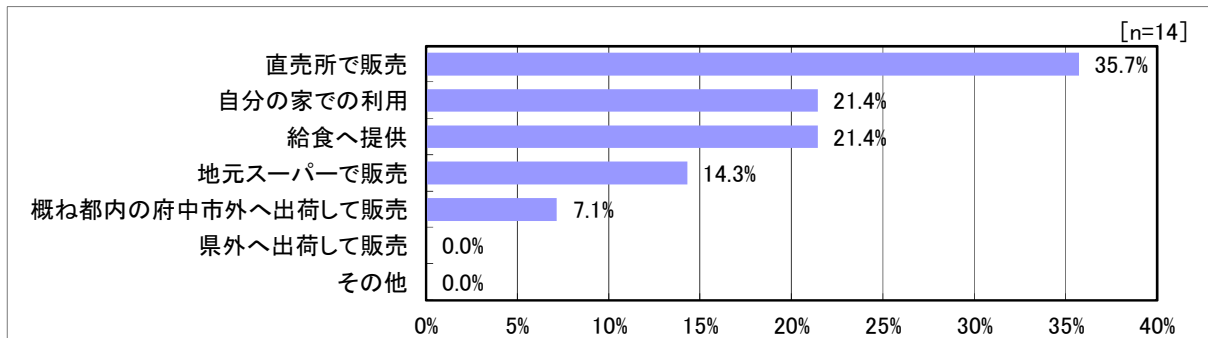
特に改善や継続的な対策が必要と考える府中市の環境課題については、再使用とリサイクルの推進とともに、公園や緑の保全や、景観の保全・整備に関心が高く、また、効果があったと思う施策および、今後も継続して取り組むことが必要と考えている施策については、農地を保全し、農業と調和のとれたまちづくりを進めるとの意見が多く、農地保全の施策の展開が求められている。

自由回答については、主に相続税の問題や将来の農地の存続について不安を持っている農業従事者が多いことが分かった。

2. 農地の保有状況、耕作状況について

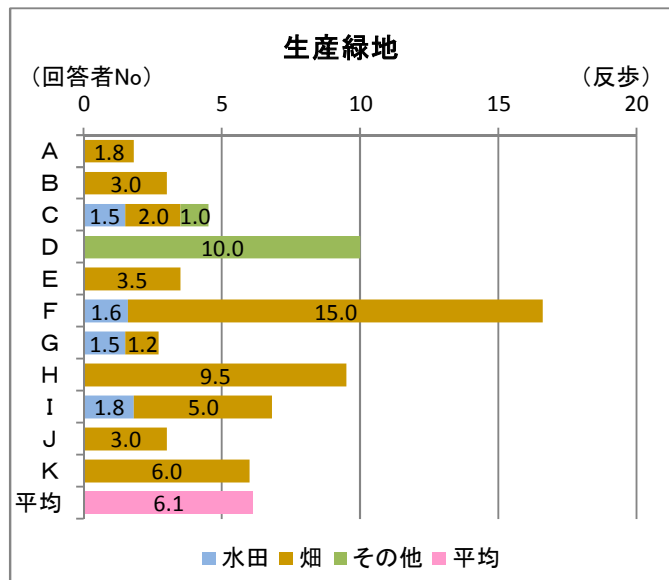
(1) 農作物の用途（複数回答）

農作物の利用用途は、「直売所での販売」（35.7%）が最も多く、次いで、「自分の家での利用」（21.4%）および「給食へ提供」（21.4%）が続いている。

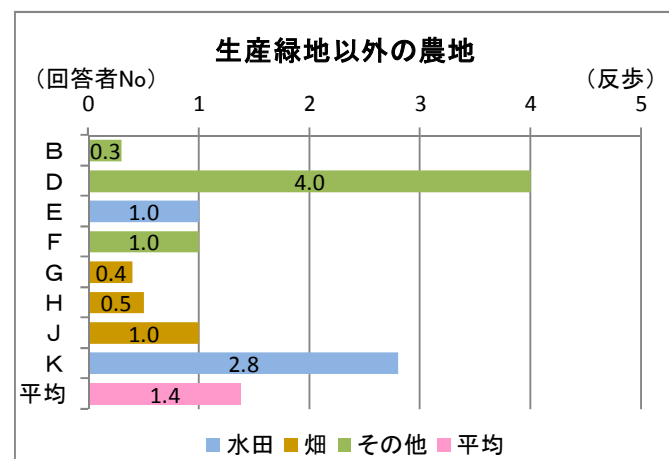


(2) 「生産緑地」および「生産緑地以外の農地」の保有状況、耕作状況

「生産緑地」および「生産緑地以外の農地」の保有状況、耕作状況について生産緑地については、「すべてが自ら耕作している」との回答であり、保有地種別については、「畑」（10件）が最も多く、次いで、「水田」（4件）、「その他」（2件）が続いている。保有地面積は、平均で6.1反歩であった。

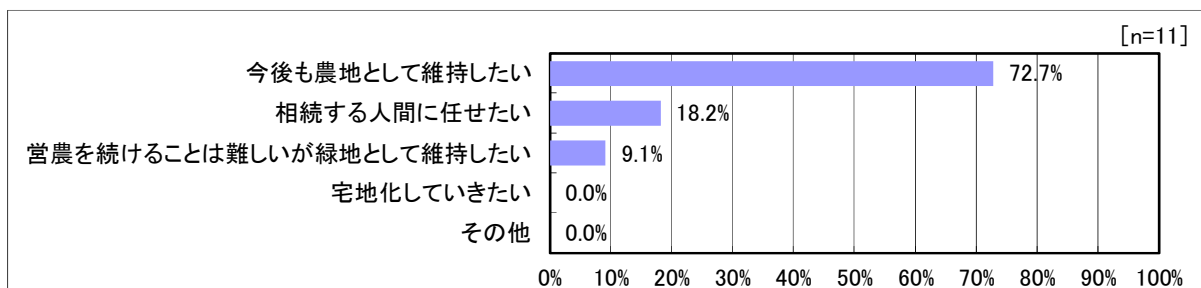


また、耕作状況について生産緑地以外の農地については、「すべてが自ら耕作している」との回答であり、保有地種別については、「畑」（3件）が最も多く、次いで、「その他」（3件）、「水田」（2件）が続いている。保有地面積は、平均で1.4反歩であった。



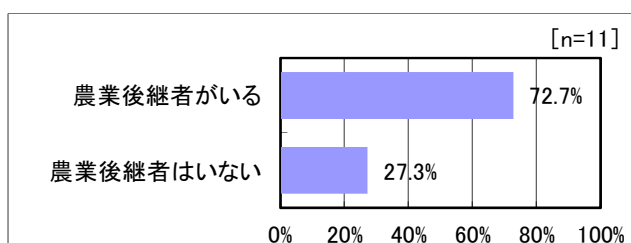
(3) 将来の農業継続の意向（単回答）

将来の農業継続の意向については、「今後も農地として維持したい」（72.7%）が最も多く、「相続する人間に任せたい」（18.2%）「営農を続けることは難しいが緑地として維持したい」（9.1%）が続いている。また、「宅地化していきたい」との回答は無かった。



(4) 農業後継者の有無（単回答）

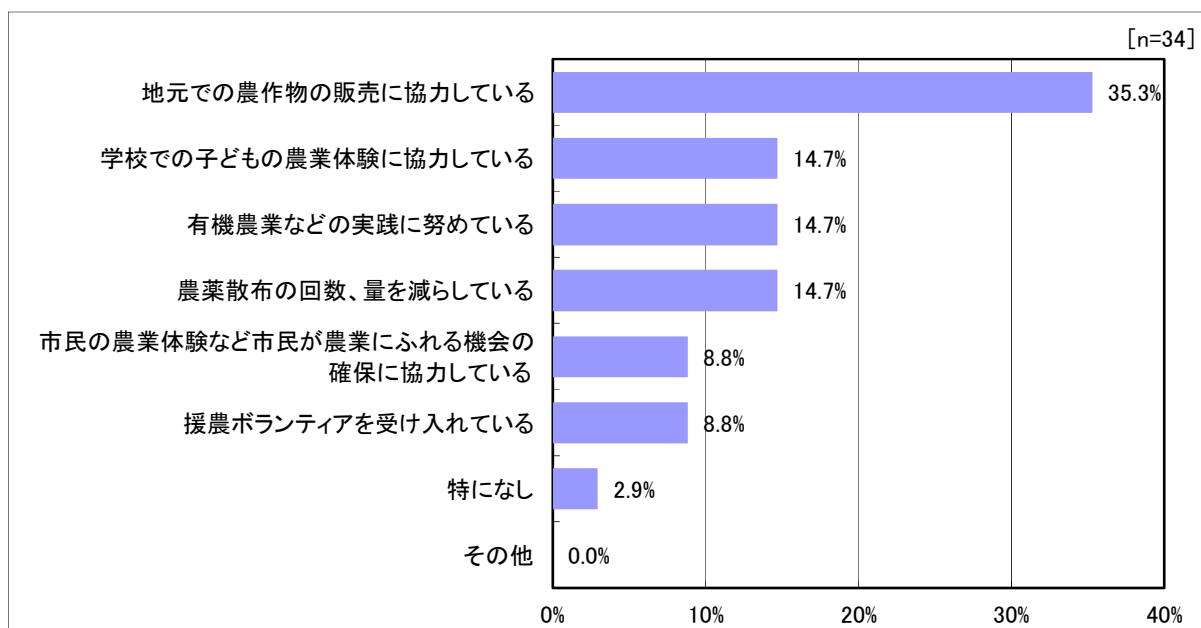
農業後継者の有無については、回答者の72.7%は「農業後継者がいる」、27.3%は「農業後継者がいない」との回答であった。



3. 農地と環境保全の関わりについて

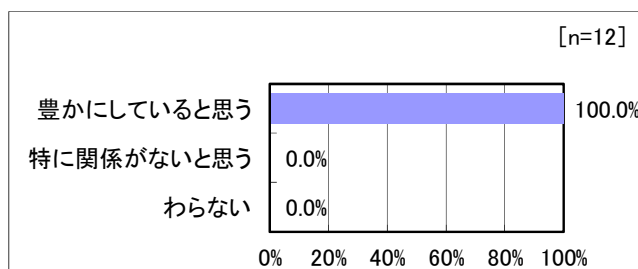
(1) 農業に関して意欲的に取り組んでいる内容（複数回答）

農業に関して意欲的に取り組んでいる内容については、「地元での農作物の販売に協力している」（35.3%）が最も多く、次いで、「学校での子どもの農業体験に協力している」（14.7%）、「有機農業などの実践に努めている」（14.7%）、「農薬散布の回数、量を減らしている」（14.7%）が続いている。



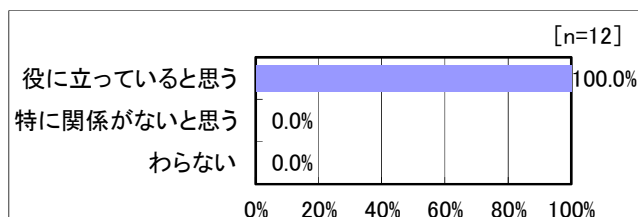
(2) 農地や農業が自然を豊かにしている自負（単回答）

農地や農業が自然を豊かにしている自負については、全ての回答者が、「豊かにしていると思う」と考えている。



(3) 「地産地消」の取り組みが省エネに役立っているのかの考え（単回答）

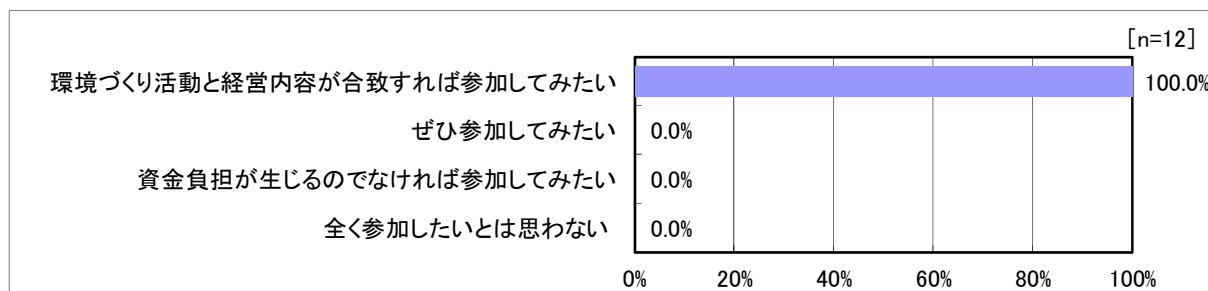
「地産地消」の取り組みが省エネに役立っているのかの考えについては、全ての回答者が「役に立っている」と考えている。



4. 市民・事業者・行政の連携による環境づくりへの参加について

(1) 市民・事業者の連携による自主的な環境づくり活動への参加意欲（単回答）

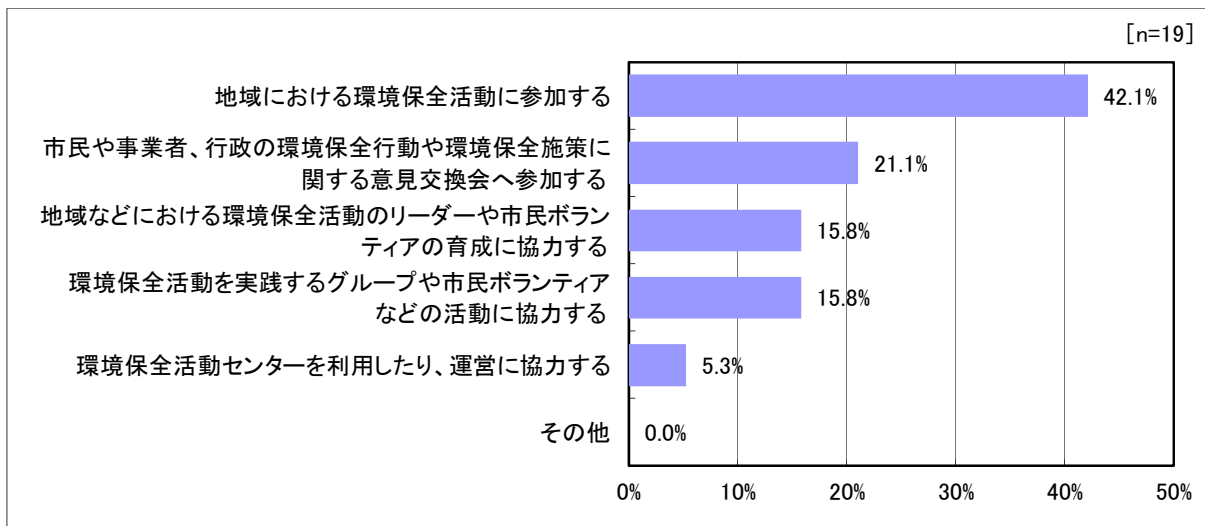
市民・事業者の連携による自主的な環境づくり活動への参加意欲については、全ての回答者が「環境づくり活動と経営内容が合致すれば参加してみたい」と考えている。



(2) 農業従事者が協働に参加したくない理由（単回答）

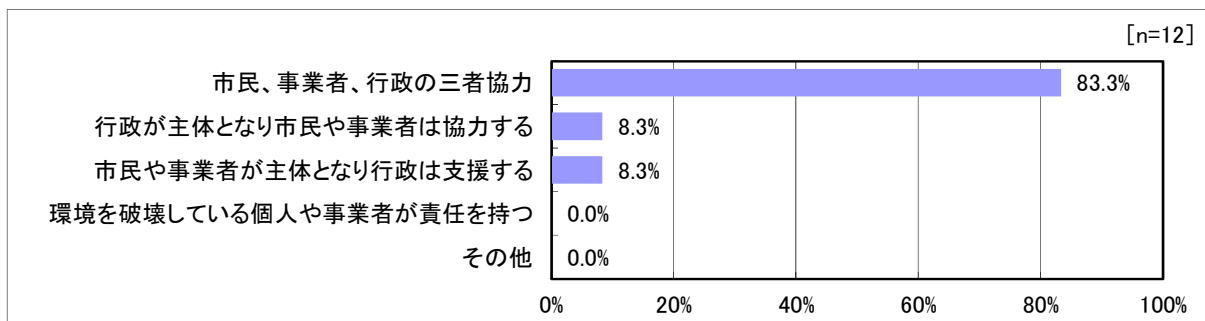
※. 回答無し

(3) 農業従事者が環境づくりに参加するために、取り組むべき重点事項（複数回答・2つまで）
 農業従事者が環境づくりに参加するために、取り組むべき重点事項については、「地域における環境保全活動に参加する」（42.1%）が最も多く、次いで、「市民や事業者、行政の環境保全行動や環境保全施策に関する意見交換会へ参加する」（21.1%）が続いている。



(4) 望ましいと考える役割分担の考え方（単回答）

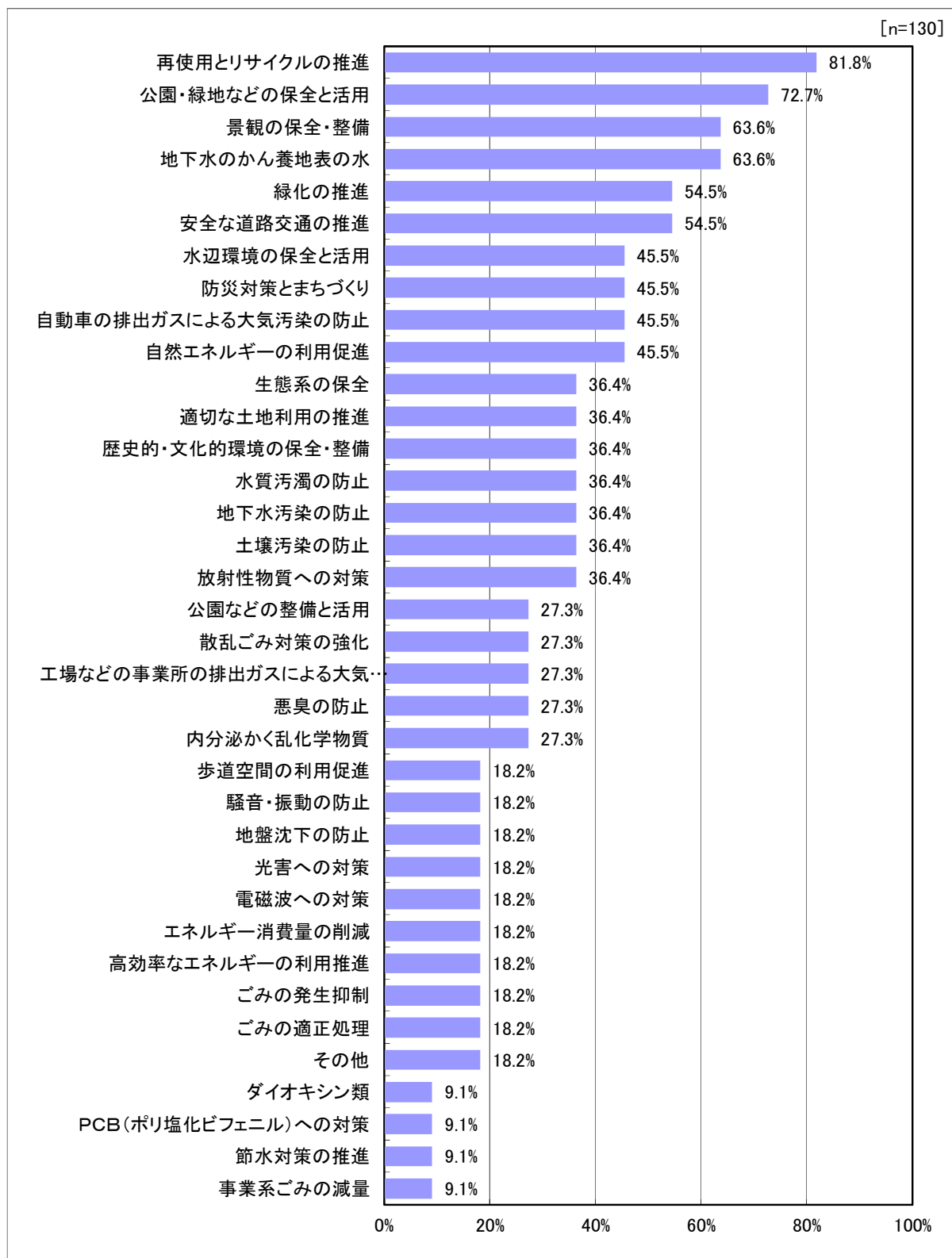
望ましいと考える役割分担の考え方については、「市民、事業者、行政の三者協力」（83.3%）が最も多く、次いで、「行政が主体となり市民や事業者は協力する」（8.3%）「市民や事業者が主体となり行政は支援する」（8.3%）が続いている。



5. 府中市の環境の現状や課題について

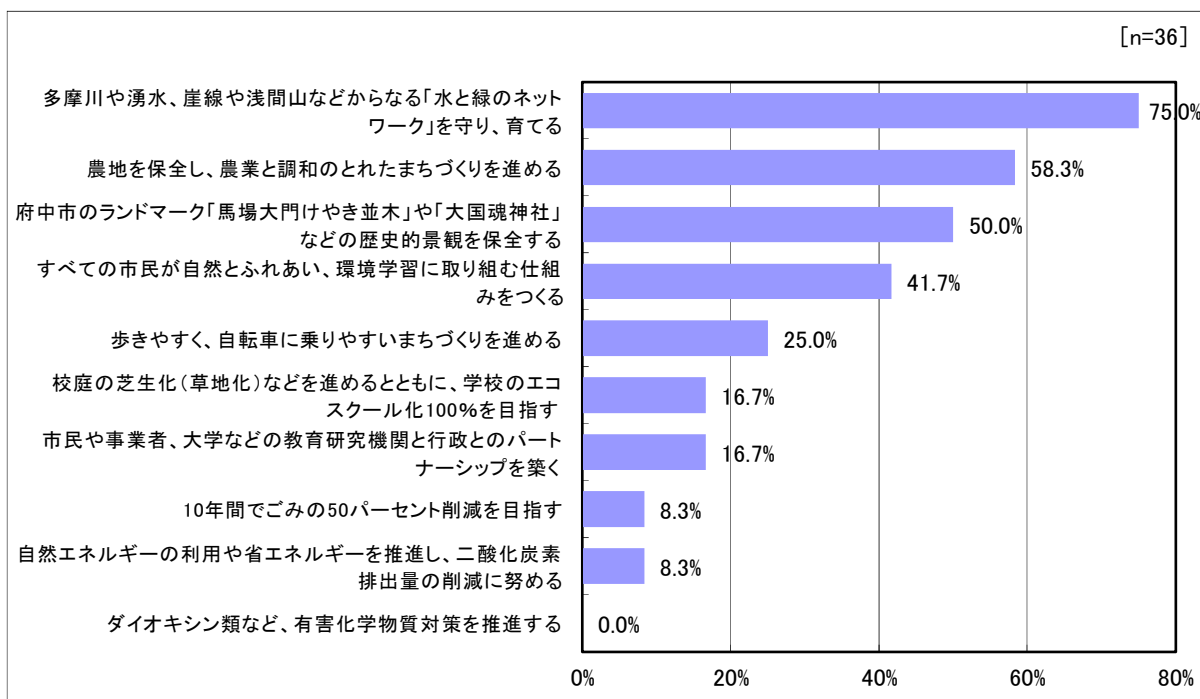
(1) 特に改善や継続的な対策が必要と考える環境課題（複数回答）

特に改善や継続的な対策が必要と考える環境課題については、「再使用とリサイクルの推進」（81.8%）が最も多く、次いで、「公園・緑地などの保全と活用」（72.7%）、「公園・緑地などの保全と活用」（72.7%）、「景観の保全・整備」（63.6%）「地下水のかん養地表の水」（63.6%）が続いている。



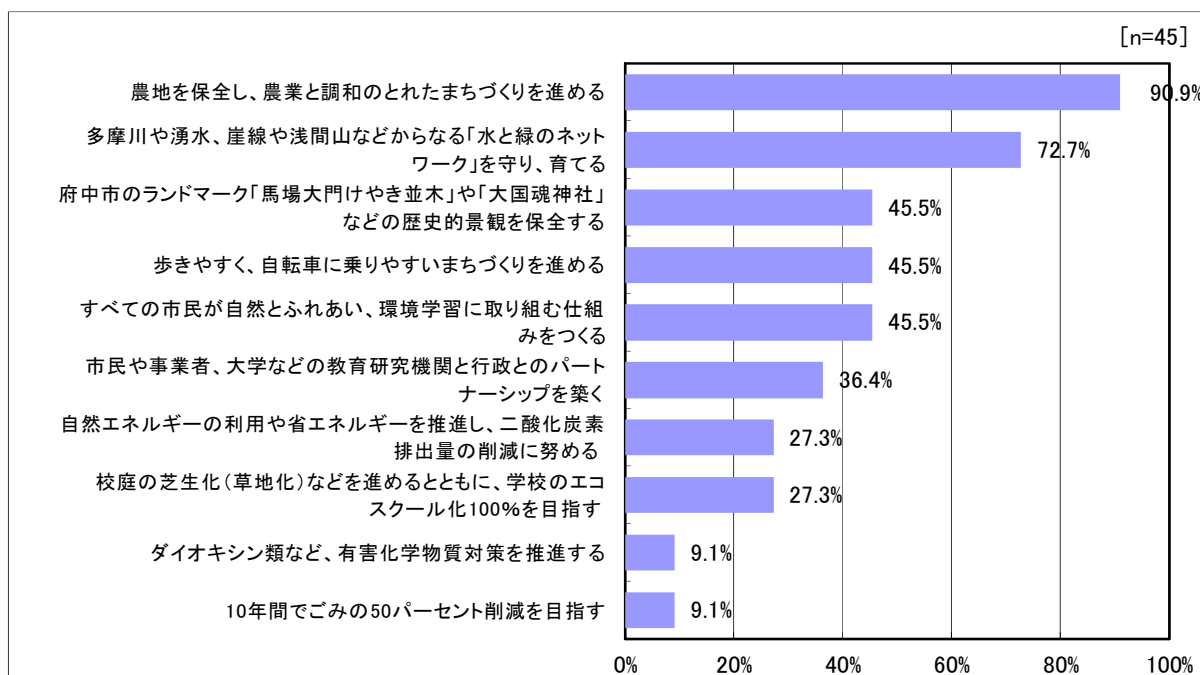
(2) 効果があったと考える環境施策の内容（複数回答）

効果があったと考える環境施策の内容については、「多摩川や湧水、崖線や浅間山などからなる「水と緑のネットワーク」を守り、育てる」（75.0%）が最も多く、次いで「農地を保全し、農業と調和のとれたまちづくりを進める」（58.3%）「府中市のランドマーク「馬場大門けやし並木」や「大国魂神社」などの歴史的景観を保全する」（50.0%）「すべての市民が自然とふれあい、環境学習に取り組む仕組みをつくる」（41.7%）「歩きやすく、自転車に乗りやすいまちづくりを進める」（25.0%）「校庭の芝生化（草地化）などを進めるとともに、学校のエコスクール化100%を目指す」（16.7%）「市民や事業者、大学などの教育研究機関と行政とのパートナーシップを築く」（16.7%）「10年間でごみの50パーセント削減を目指す」（8.3%）「自然エネルギーの利用や省エネルギーを推進し、二酸化炭素排出量の削減に努める」（8.3%）「ダイオキシン類など、有害化学物質対策を推進する」（0.0%）が続いている。



(3) 今後も継続して重点的な取り組みを行うことが必要と考える環境施策（複数回答）

今後も継続して重点的な取り組みを行うことが必要と考える環境施策については、「農地を保全し、農業と調和のとれたまちづくりを進める」（90.9%）が最も多く、次いで、「多摩川や湧水、崖線や浅間山などからなる「水と緑のネットワーク」を守り、育てる」（72.7%）が続いている。



(4) 効果があったと考える環境施策の内容（記述）

効果があったと考える環境施策の内容についての質問であったが、回答は5件で、いずれも都市化への危険や、災害時の農地の必要性の意見が多かった。

【寄せられた意見】

都市化が進み、緑地が減少し続ける中農地など大きな災害時には大きな役割を果たすと思います。
都市化が進展する中、緑地空間が必要
①今後とも強化し、守ってもらいたい。②まだ歩行者と自転車分離して、安全策を築いてほしい。⑦芝生化は進めるべきだが、進んでいないし全面でなく一部の学校も予定している校庭は全面で行うべきである。⑩今後とも努力し強化してほしい。
農地保全の必要性は、府中市農業振興プランで唱えられてきたが、一向に農地の減少に歯止めがかからない、総面積の5%そこそこの貴重な農地を維持できないのが現実であり、この現実を転換する方策があったら示してほしい。
都市空間において農地の役割が拡大するので

(5) 自由回答（記述）

府中市の環境行政へのご要望や、貴事業所のお考えをご自由にお聞かせください。との問いに、6つの意見や要望等が寄せられた。

お寄せ頂いた意見や要望は、主に相続税の問題や、将来の農地の存続についての意見が多かった。

第4章. 小学生アンケート調査の結果

1. 考察（調査結果の総括）

小学生アンケート調査は、府中市内の小学5年生に対して、ホームルーム時にアンケートを実施しており、回答した児童は103人である。

いつも気をつけている環境にやさしい行動については、部屋の電気を使わない時は消している、テレビをつけっぱなしにしない、ごみを捨てる場合は分別して捨てている、生き物や緑などの自然を大事にしているとの質問に対して、「取り組んでいる」もしくは「時々、取り組んでいる」との回答が9割以上を超えている。これらは身近であり、小学生でも手軽に取り組めることから、回答が多かったと考えられる。

今の府中市の自然や環境をどう感じているかについては、約2割が「良い」と感じているものの、「いいところの方が多いと思うけど、少し悪いところもある」、「すごくいいと思う」との回答が約7割と最も多く、子どもたちは、概ね府中の環境に満足しているものの、まちの課題をしっかりと認識している子どもも多いことがわかった。

それらの理由については、自由回答欄の結果から、府中市は、緑や自然が多くて良い環境と思っているが、タバコや空き缶、ゴミのポイ捨てがあるので、それを改善してほしいと思っている児童が多いことがわかった。今後、緑や自然環境の保全について、施策の展開を図るとともに、大人のポイ捨て等マナーの意識改善を図るなど、これらに対応した施策が必要と考えられる。

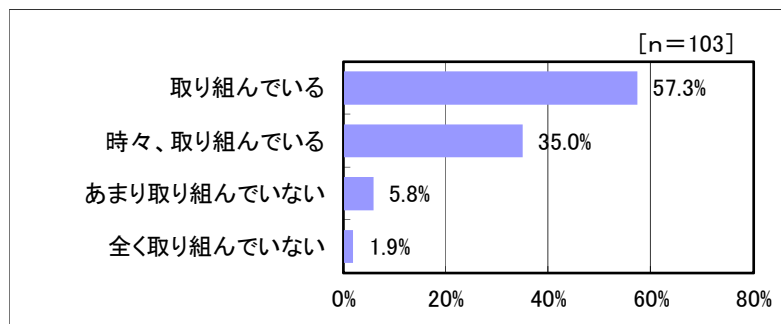
今回のアンケート結果によると、身近に出来る環境行動については、すでに多くの子どもが取り組んでいることが見られる。一方、子どもの目線で見えた地域の環境については、緑や自然の保全はもとより、大人のマナーに起因する課題を含んでいる事が認識された。

2. 小学生アンケート調査結果

(1) いつも気をつけている環境にやさしい行動について

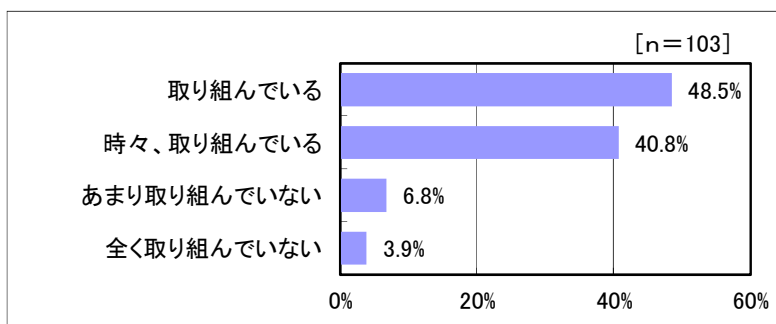
① 部屋の電気を使わない時は消している（単回答）

部屋の電気を使わない時は消している行動については、「取り組んでいる」(57.3%)「時々取り組んでいる」(35.0%)の回答が多く、約9割の児童が部屋の電気を使わない時には消灯している。



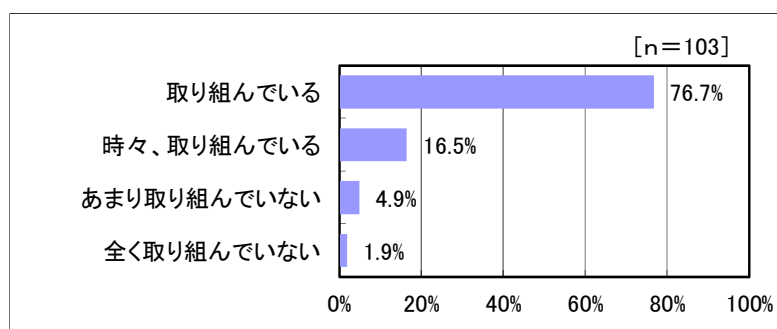
② テレビをつけっぱなしにしない（単回答）

テレビをつけっぱなしにしない行動については、「取り組んでいる」（48.5%）、「時々取り組んでいる」（40.8%）の回答が多く、約9割弱の児童が、テレビをつけっぱなしにしていない。



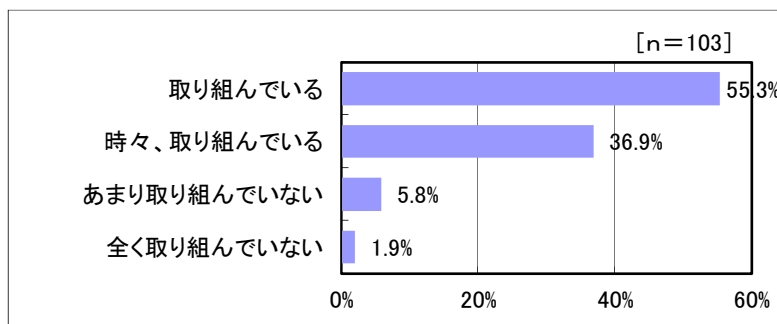
③ ごみを捨てる場合は分別して捨てている（単回答）

ごみを捨てる場合は分別して捨てている行動については、「取り組んでいる」（76.7%）、「時々取り組んでいる」（16.5%）の回答が多く、約9割の児童が、ごみを捨てる場合は分別して捨てている。



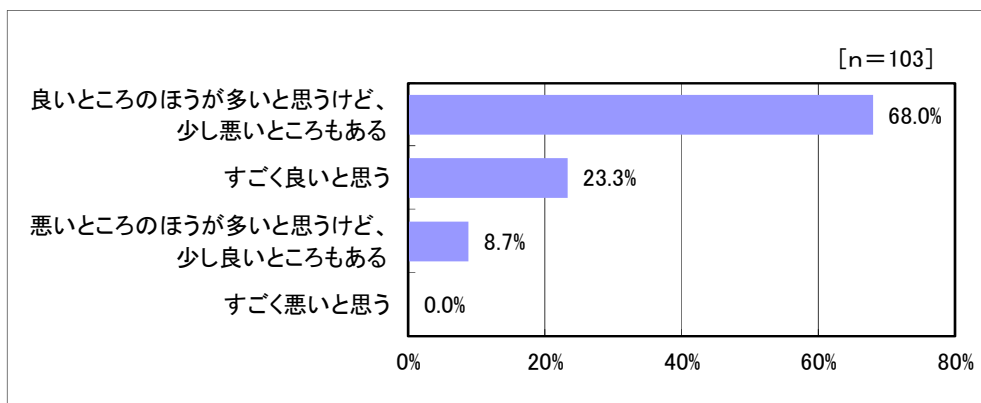
④ 生き物や緑などの自然を大事にしている（単回答）

生き物や緑などの自然を大事にしている行動については、「取り組んでいる」（55.3%）、「時々取り組んでいる」（36.9%）の回答が多く、約9割の児童が、生き物や緑などの自然を大事にしている。



(2) 今の府中市の自然や環境をどう感じているか（単回答）

今の府中市の自然や環境をどう感じているかについては、「良いところの方が多いと思うけど、少し悪いところもある」（68.0%）「すごく良いと思う」（23.3%）の回答が多く、約9割の児童が、ほぼ府中の環境に満足していることがわかる。



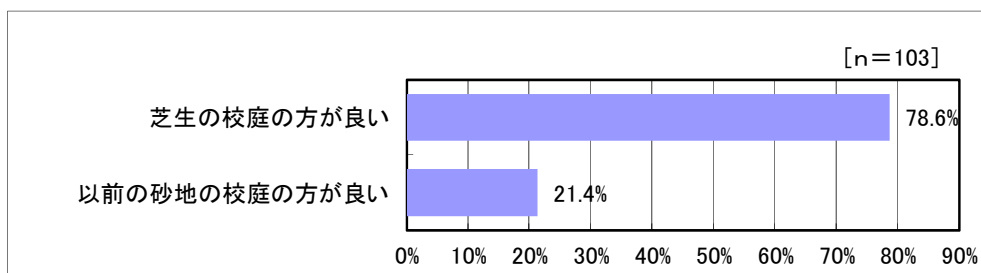
(3) 環境の印象についての回答理由（自由回答）

府中市の良いところ、悪いところや、「府中市の環境を良くするためにみんなが行動した方が良いと思うアイデアなどについて自由に書いてください。」との間に、100の回答があった。

主な回答は、府中市の良いところについては、「緑や木が多い」府中市の悪いところについては、「タバコや空き缶、ゴミのポイ捨てがある」府中市の環境を良くするためにみんなが行動した方が良いと思うアイデアなどについては、「看板やポスターでポイ捨て禁止の呼びかけをする」であった。

(4) 芝生緑化（校庭）の満足度（単回答）

芝生緑化されている小学校の児童に芝生緑化（校庭）の満足度を確認した。結果については、「芝生の校庭の方が良い」（78.6%）との回答が約8割弱あった。



第5章. 中学生アンケート調査の結果

1. 考察（調査結果の総括）

中学生アンケート調査は、府中市内の中学2年生に対して、ホームルーム時にアンケートを実施し、回答した生徒は192人であった。

いつも気をつけている環境にやさしい行動については、こまめに消灯している、テレビをつけっぱなしにしない、ごみを捨てる場合は分別している等の実践しやすい取り組みについては、「実施している」もしくは、「時々実施している」との回答が多く、自然観察会や野外環境学習会に参加している、環境に関するイベントや地域活動への参加については、「全く実施していない」もしくは、「あまり実施していない」との回答が寄せられた。市民の回答傾向と同様に、身近に取り組める行動までに留まった実践状況となっていることがわかる。

今の府中市の自然や環境をどう感じているかについては、約2割がよいと感じているものの、「いいところの方が多いと思うけど、少し悪いところもある」「すごくいいと思う」との回答が約6割と最も多く、中学生は、小学生同様、概ね府中の環境に満足しているものの、まちの課題をしっかりと認識していることがわかった。

また、自由回答については小学生と同じく、府中市は、緑や自然が多くて良い環境と思っているが、タバコや空き缶、ゴミのポイ捨てがあるので、それを改善してほしいと思う生徒が多いことがわかった。今後、緑や自然環境の保全について、施策の展開を図るとともに、大人のポイ捨て等マナーの意識改善を図るなど、これらに対応した施策の検討が必要と考えられる。

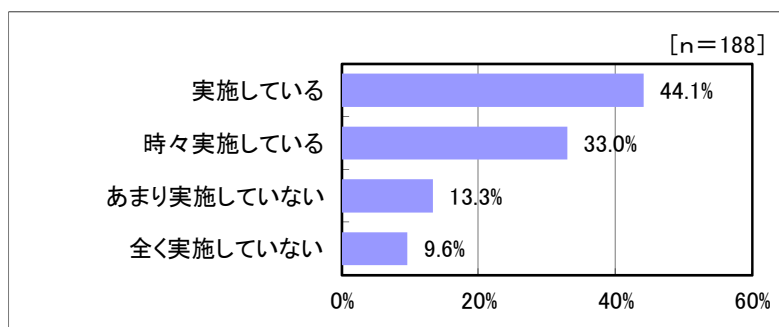
今回のアンケート結果によると、小学生同様、身近に出来る環境行動については、すでに多くの子どもが取り組んでいることが見られる。一方、やはり小学生と同様に、中学生の目線で見た地域の環境については、緑や自然の保全はもとより、大人のマナーに起因する課題を含んでいる事が認識された。

2. 中学生アンケート調査結果

(1) いつも気をつけている環境にやさしい行動について

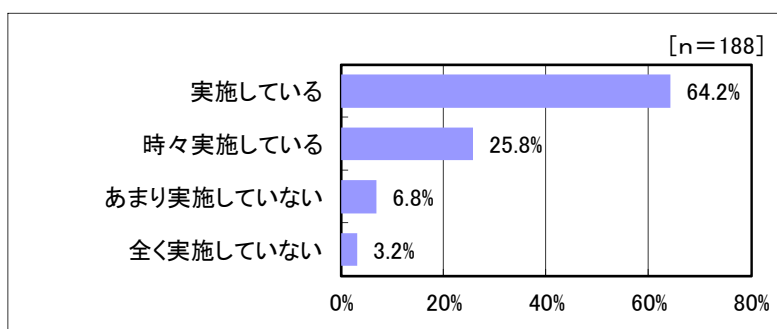
① エアコンの温度は夏場 28℃、冬場 20℃に設定している

エアコンの温度は夏場 28℃、冬場 20℃に設定している行動については、「実施している」(44.1%)、「時々実施している」(33.0%) の回答が多く、約8割弱の生徒が、エアコンの温度は夏場 28℃、冬場 20℃に設定している。



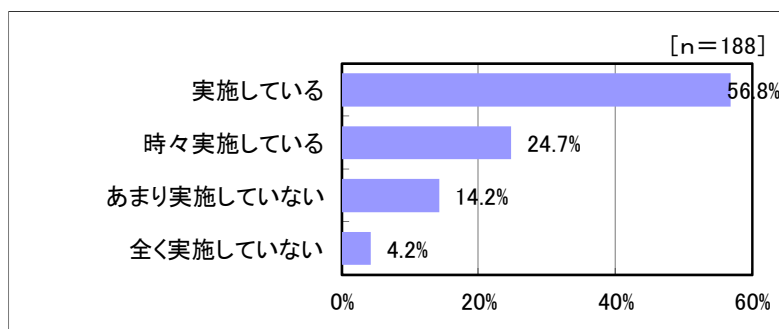
② こまめに消灯している

こまめに消灯している行動については、「実施している」(64.2%)「時々実施している」(25.8%)の回答が多く、9割の生徒が、こまめに消灯している。



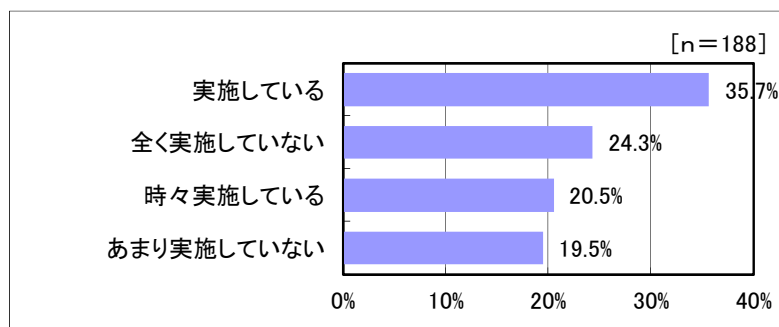
③ テレビをつけっぱなしにしない

テレビをつけっぱなしにしない行動については、「実施している」(56.8%)、「時々実施している」(24.7%)の回答が多く、約8割の生徒が、実施している。



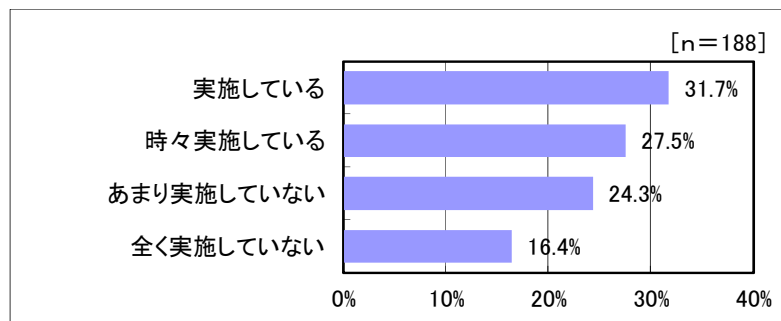
④ テレビを省エネモードに設定している

テレビを省エネモードに設定している行動については、「実施している」(35.7%)、「全く実施していない」(24.3%)の回答が多く、2分する結果となった。



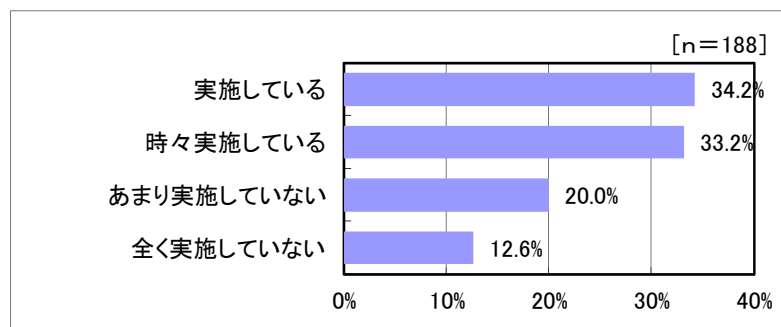
⑤ 電化製品の主電源を切る。またはコンセントを抜く

電化製品の主電源を切る。またはコンセントを抜く行動については、「実施している」(31.7%)、「時々実施している」(27.5%)の回答が多く、約6割の生徒が、電化製品の主電源を切る。またはコンセントを抜いている。



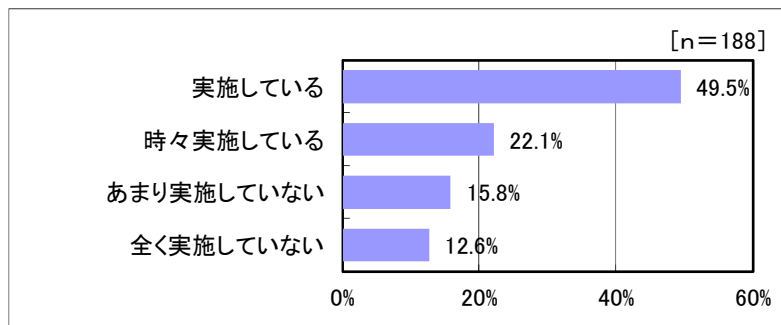
⑥ お風呂は、入浴時間を空けないようにしている

お風呂は、入浴時間を空けないようにしている行動については、「実施している」(34.2%)、「時々実施している」(33.2%)の回答が多く、約7割の生徒が、お風呂は、入浴時間を空けないようにしている。



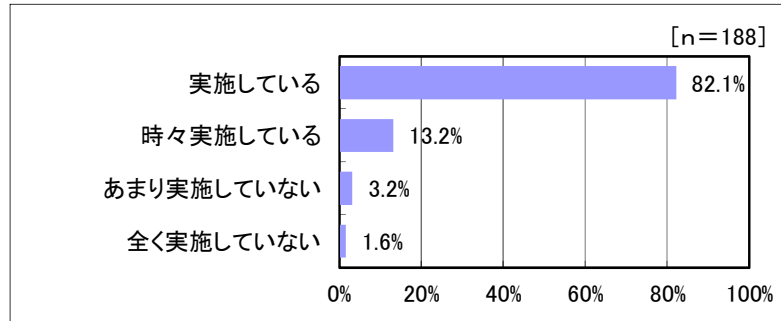
⑦ 買い物をする時はマイバッグを持参している

買い物をする時はマイバッグを持参している行動については、「実施している」(49.5%)、「時々実施している」(22.1%)の回答が多く、約7割の生徒が、買い物をする時はマイバッグを持参している。



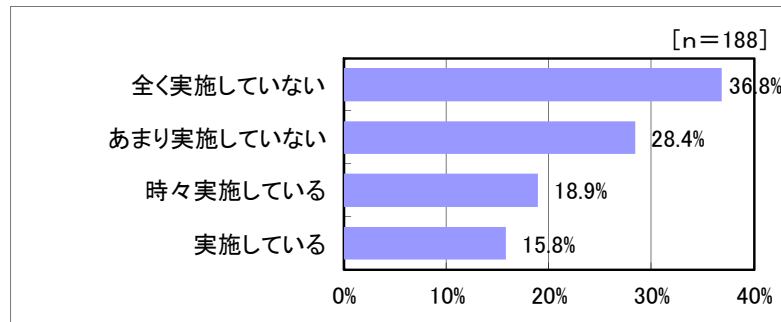
⑧ ごみを捨てる場合は分別している

ごみを捨てる場合は分別している行動については、「実施している」(82.1%)、「時々実施している」(13.2%)の回答が多く、ほとんどの生徒が、ごみを捨てる場合は分別している。



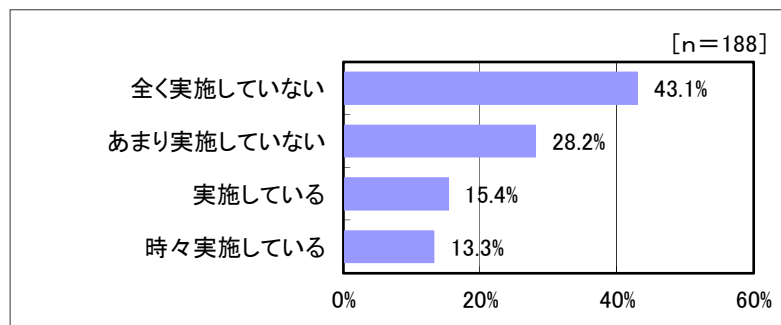
⑨ 自然観察会や野外環境学習会に参加している

自然観察会や野外環境学習会に参加している行動については、「全く実施していない」(36.8%)、「あまり実施していない」(28.4%)の回答が多く、約65%の生徒が、自然観察会や野外環境学習会に参加していない。



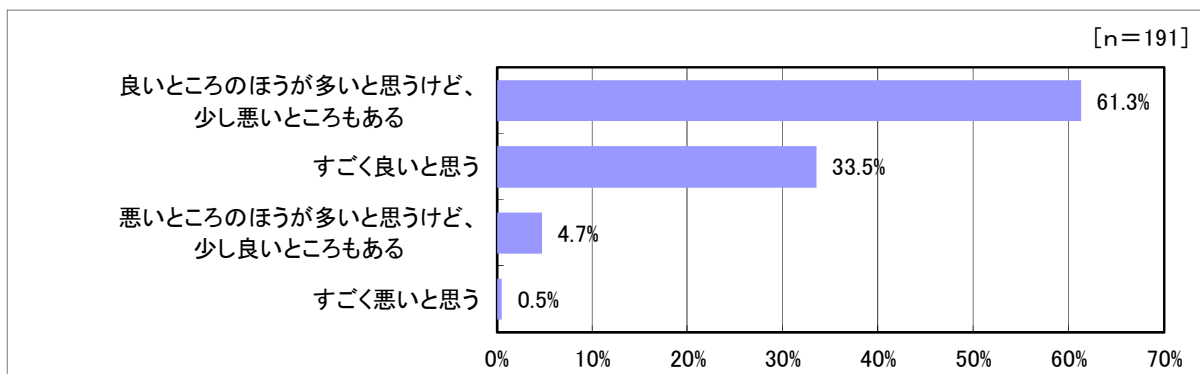
⑩ 環境に関するイベントや地域活動に参加している

環境に関するイベントや地域活動に参加している行動については、「全く実施していない」(43.1%)、「あまり実施していない」(28.2%)の回答が多く、約7割の生徒が、環境に関するイベントや地域活動に参加していない。



(2) 今の府中市の自然や環境の満足度（単回答）

今の府中市の自然や環境の満足度については、「良いところのほうが多いと思うけど、少し悪いところもある」（61.3%）、「すごく良いと思う」（33.5%）の回答が多く、ほとんどの生徒が、ほぼ府中の環境に満足していることがわかる。



(3) 環境の印象についての回答理由（自由回答）

府中市の良いところ、悪いところや、府中市の環境を良くするためにみんなが行動した方が良くと思うアイデアなどについて自由に書いてください。との問いに、142の回答があった。

主な回答は、府中市の良いところについては、「緑や木が多い」「自然が残されている」府中市の悪いところについては、「タバコや空き缶、ゴミのポイ捨てがある」その他の意見として、「エコライフ」や「ごみの分別」「ケヤキ並木」等に関する意見もあった。